302.38
Ta291b

0001003000

3

0001003-000

302．38－Ta291b

驀進途上のサウェート・ロシヤ

高橋利雄・著

露西亜通信社

1931　5版

AAB

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第６７条の規定に基づき、平成１２年５月１５日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

書號	419
番號	3.77

昭和 [illegible]. 5 -

高橋利雄著

驀進途上のサウェート・ロシヤ

露西亞通信社版

日本文庫
除籍

東京都千代田区丸ノ内二ノ八(仲十二号館六号四一一室)
芳澤中國記念事業財團
電話(28)ヨ一〇八番

国立国会
35.10.17
図書館

533079

302.38
Ta291a

序

サウエート聯邦今日の歩みは世界革命への前提として彩大なる五ケ年計劃のスローガンを掲げ、先づ以て對内的への總ての充實と完成とにある。

その驀進の光景は七、八百億留の巨資を投ずる點から見ても將に國運を賭しての一大戰爭と同然である。

此の戰爭的全國家事業の擴大充實に向つての驀進の反面には言語に絶する困憊せる國民生活の慘狀と不自由とがある。

然しサ聯邦政權の言を以てすれば這箇目的達成の爲には國民生活の困苦缺乏の如きは暫く忍ばなければならない、と。

何れにしても此の非常的計劃が——假りに何年か延びても——完全に實現された曉は、その完成せられたる全エネルギーを傾倒して直に對外的に、より驀進して來るであらうこ

とは容易に窺ひ知らるゝ所である。

今は將に『驀進途上のサウエート・ロシャ』であるが、やがてその驀進が——内から外に面を向けて——對外的**スタート**を切つた場合、現在の組織下にある資本主義諸國が果してよく**優越感**の對立を味ひ得るであらうか、否か？

吾人の大なる**疑問**は**此處**に存する。

殊に況んや混沌たる内政が直に反映して外侮を受けんとするが如き日本の現狀を想ふ時、而してサ聯邦の奏するユートピアへの行進曲が異樣の響を以て強く吾人の耳朶を打つのとき、與へられたる使命に依り**偽らざる**サ聯邦強行軍の實況を廣く江湖に報告するの責務亦重大なりと信ずる。

昭和六年三月廿五日

（近藤社長入露の日）

露西亞通信社主幹　高橋利雄

革命記念日觀兵式に於ける赤軍騎兵の車載機關銃隊の行進

五ヶ年計畫を四ヶ年に!!
農業國より工業國にサ聯邦を
再建せん（ータスポ）

資本主義諸國の軍備に對し
レーニン黨の强化……ソ
アヴイアヒムを通じ國防の
充實を以て應へん（ータスポ）

とは容易に窺ひ知らるゝ所である。

今は將に『驀進途上のサウエート・ロシヤ』であるが、やがてその驀進が——内から外に面を向けて——對外的**スタート**を切つた場合、現在の組織下にある資本主義諸國が果してよく**優越感**の對立を味ひ得るであらうか、否か？

吾人の大なる**疑問**は此處に存する。

殊に況んや混沌たる内政が直に反映して外侮を受けんとするが如き日本の現狀を想ふ時、而してサ聯邦の奏するユートピアへの行進曲が異樣の響を以て強く吾人の耳朶を打つのとき、與へられたる使命に依り**僞らざる**サ聯邦強行軍の實況を廣く江湖に報告するの責務亦重大なりと信ずる。

昭和六年三月廿五日

（近藤社長入露の日）

露西亞通信社主幹　高橋利雄

革命記念日觀兵式に於ける赤軍騎兵の車載機關銃隊の行進

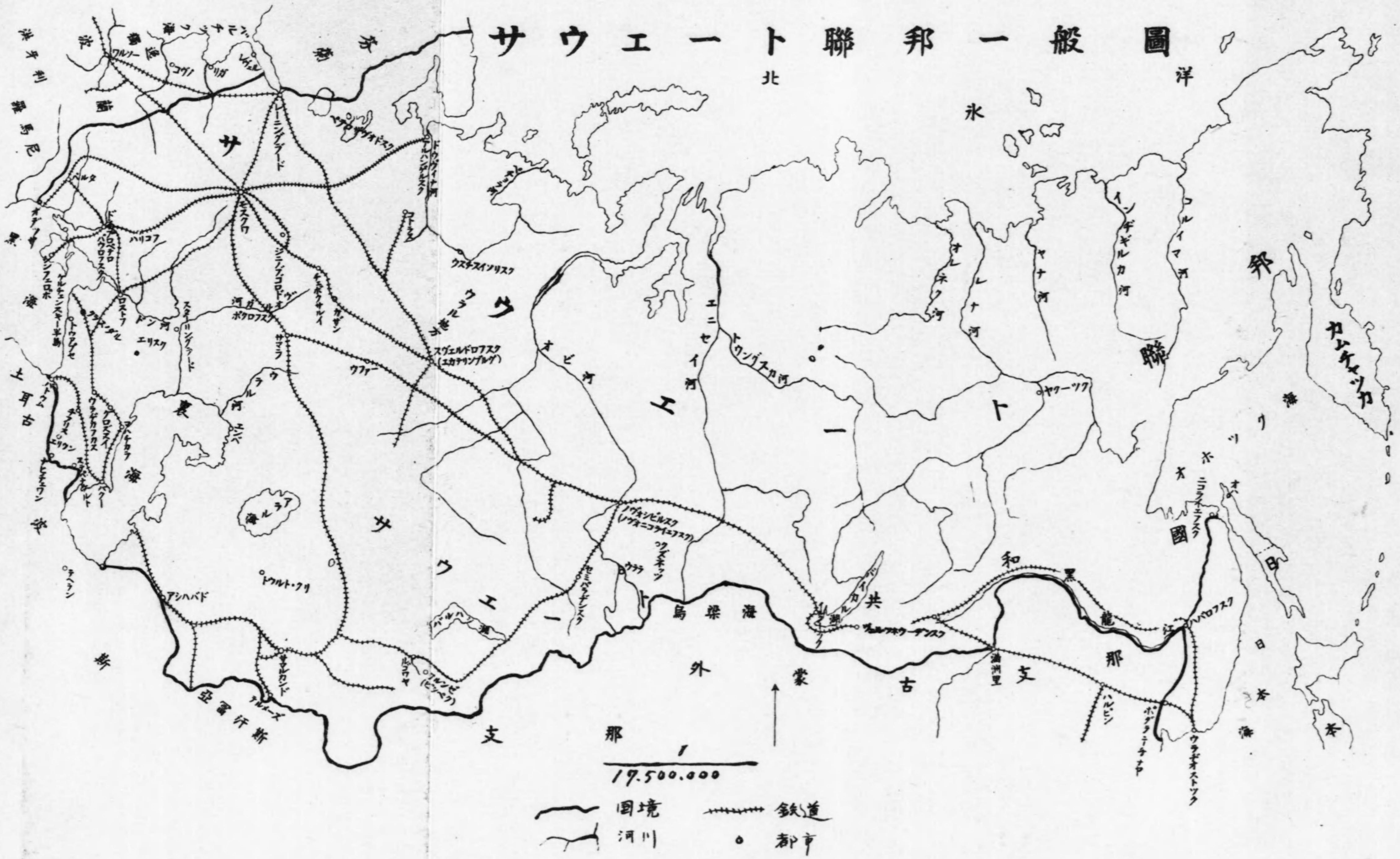
五ヶ年計畫を四ヶ年に!!
農業國より工業國にサ聯邦を
再建せん（ポスター）

資本主義諸國の軍備に對し
ソヴ……化强の黨シニーレ
の防國じ通なムヒアイヴア
充實を以て應へん（ポスター）

西伯利亞に於る大農具工場の建築狀況

一九三一年十月完成の豫定・竣工の曉は斯種工場としては世界最大のものである

サウエート聯邦一般圖



北氷洋
サウエート聯邦
モスクワ
スヴェルドロフスク
オビ河
エニセイ河
レナ河
ヤクーツク
ノヴォシビルスク
裏海
アラル海
黒龍江
ハバロフスク
ウラヂオストック
ハルビン
満洲里
外蒙古
支那
オホーツク海
日本海
カムチャツカ
1/19.500.000
國境
鐵道
河川
都市

驀進途上のサウェート・ロシヤ

目次

はしがき……（一）
第一章　政策變遷の跡を見る……（六）
戰時共産主義の失敗……（六）
新經濟政策より五ヶ年計畫迄……（九）
ソ聯邦政策變遷概見表……（一四）
第二章　五ヶ年計畫と産業……（一九）
計畫は實行可能なりや……（一九）
計畫の大要……（二一）
重工業計畫の展望……（二四）

電化事業……（二五）
燃　料……（二六）
製鐵及機械製作工業……（二七）
農業と運輸……（三〇）
社會主義的見地よりの觀察……（三二）
計畫は如何に實施せられつゝありや……（三二）
計畫に伴ふ幾多の障碍……（三九）
五ヶ年計畫の將來及反映……（四六）

第三章　五ヶ年計畫と國防……（五一）

赤軍はサ聯邦の楯であり……（五一）
世界革命の前衞である
軍備の概觀……（五三）
軍の機械化……（五八）
化學戰準備……（五九）
空軍の擴張……（六〇）
國防充實第一主義……（六四）

物資窮乏と極度の節約……（六六）
共産黨治下の社會相斷片……（六六）

第四章　國民私生活の窮困と社會的混亂……（六六）

第五章　サ聯邦の對外策、就中其の東方策……（七七）

西方より東方へ……（七七）
回教諸國の反歐運動……（七八）
對支活動の種々相……（八〇）
對日關係の實相……（八四）

第六章　國策遂行に有利な國家組織……（八六）

政治組織……（八六）
サウエート大會……（八七）
特殊の組織、制度……（八七）
第三インターナショナル、その他……（八八）
國策の遂行の方式……（八九）
結　論……（九〇）
……（九一）

533079

4

附　錄

最近スターリンの激勵演說

サ聯邦經濟建設當面の諸問題……（一―二五）

驀進途上のサウエート・ロシヤ

はしがき

浦鹽斯徳（ウラヂオストック）――夫れはロシヤの極東に於る唯一の良港であることは何人も知る所である。ところで、浦鹽斯徳と云ふ言葉は一體何を表現するか、ロシヤ語でウラヂと云ふのは占領すると云ふ意味であり、ウオストークとは東方を云ふのである。故にウラヂウオストークとは「東方を占領する」と云ふ意味である。夫れはピーター大帝以來ロマノフ王朝三百年の間、領土擴張、東方侵略に一貫したロシヤの雄圖を物語る記念碑である。「双頭の鷲」旗を打ち翻し歐亞大陸に跨つて世界陸土の六分の一を占領した帝政ロシヤの覇業は革命によつて遂に覆滅した、然して北方の雄として四圍を壓した帝國主義ロシヤの脅威は、ボリシ

エウイキ政權への推移によつて果して消滅したであらうか!?

「帝國主義絶對反對」、「被壓迫民族解放」等特異のスローガンを掲げ、以て列強を誹謗しその進出を牽制する一方弱少民族の歡心を買ひ彼等を赤色旗下に糾合せんとする獨自の新外政樣式を創始したサウエートは、その對外政策に於て舊帝政時代の侵略主義を全く變革したる如く看取される。然しながらサ聯邦(以下サウエートロシヤを略稱してサ聯邦の字を用ふ)の實際に行ひ來り又現に行ひつゝある業績について見るに、その對外方略は之を舊帝政のそれに對比し形式及手段に於て異るのみであつて侵略主義の實質に於ては何等の差異がないと云ふべきである。對回敎民族煽動、對印度畫策、對支政策、外蒙共和國の設立、等々、その實相を檢討し、又第三インターナショナルの組織によつて列強國內の階級分裂並階級對立を誘發せんとする苦肉の謀策を見れば、サ聯邦の對外政策が赤色侵略主義の脅威と稱せらるゝも又當然と云ふべきであらう。列國が在來の所謂國際慣例に拘束され自由濫測たる外政を行ひ得ぬ自縄自縛の狀態を後目にして、サ聯邦が奔放傍若の外交方式を

採り縱橫自在、臨機應變の手段に出で、列強をして應接に迷はしむる有樣は寧ろ停滯沈淪せる今日の國際場裡に一味の淸涼を與ふるの感あるを覺ゆる。サ聯邦の對外政策はその根本に於て在來國家の夫と異るものあるは玆に說く迄もないが、その實行に當つても上述の如く獨自の新樣式を取り、最も强硬辛辣なる手段に出でゝ居るのである。

冒頭に於てウラヂウオストークの意義を說く所以は此の間の事情を側面より語らんとする意向に外ならぬ、卽ちペトログラードはレニングラードとなり、ツアーリチンがスターリングラードと變じたサ聯邦に、侵略主義の金字塔たるウラヂウオストークの名が依然として殘されてあるのは皮肉なる一例證と見らるゝ。

由來、サ聯邦は謎の國として世界の視聽を集めて居る。革命以降の變化、殊に最近五ケ年計畫の立案乃至その實施の狀勢が傳へらるゝに及び、或はサ聯邦の將來恐るべしとし、或は赤色政治に心醉するものあり。サ聯邦に對する論議、關心は益々高潮を呈して來た。此の間に於て、所謂左傾一派はサ聯側の宣傳をそのまゝ鵜呑みにして勞農政權を禮讚し、

ロシヤの現實を以て勞働者、農民の極樂境の如く信じ、その主義を以て最高の理想として居る。又之に對して他の者は、ロシヤの民衆、殊にその大部分を占むる農民の生活苦を具體的に引證し、鈍重無智のロシヤ人にして始めて此の苦難に堪へ得るので、他國に於ては到底斯る現象は許されぬ所である。五ケ年計畫の如きも彼等の宣傳する程果して實績を擧げつゝあるか頗る疑はしい所である。兎に角、現在ロシヤに於て行はれつゝある如き强制が施され莫大の犧牲が拂はるゝとすれば、一部工場の新設、事業開發の如きは當然の事である。然し斯る强行が何時まで許さるゝか、蓋しその前途は頗る疑問である。と論じ悲觀說をなす者も少くない。

斯る情勢を觀察すればトロツキーならずとも「ロシヤよ、何處へ行く?」の疑問を發せざるを得ない事となる、然らば結局、謎の國サ聯邦は謎として殘さるゝであらうか、否、事實はその必然赴くべき所に到達する、サ聯邦の存在は決して浮雲の如く把握し能はざるものでなく、又之を忽に看過する事は許されぬ。殊に吾等日本人として、隣邦ロシヤの眞

相を究め以て將來の進展を察知することは最も緊要であると云はねばならぬ。日露戰爭等過去の歷史を說く迄もなく、彼我の地理的關係、支那、就中滿蒙に於る兩國の微妙なる交涉等を考察すれば、日露兩國は如何なる場合と雖も無關係ではあり得ない、斯く觀じ來ればサ聯邦の正體を究むることの意義は愈々重大である。「彼(對者)を知り己を知れば百戰殆からず」とは只に兵家の至言たるのみならず、何人も忘るべからざる格言である、殊に國際場裡波瀾斂まることなき現下の時勢に對しわが國民たるもの須く此の言を坐右銘とすべきである。

乃ち如上の意味に於てサ聯邦の實相を傳ふべく、玆に豐富的確なる資料を涉獵し以て中正なる立場に於て本書の稿を起した次第である。世上ロシヤを傳ふる書籍は決して尠しとしないが、或は左に傾き、或は右に偏し眞のロシヤを究めんとする要求に適合するものは殆ど稀である。以下本書各章の記述に於て正しきサ聯邦の形相を描出するであらう。

第一章　政策變遷の跡を見る

サ聯邦は一九一七年十一月の革命以來その政策、就中經濟政策に於て數次の變遷を重ねてゐる、卽ち當初政權を獲得するやボリシエウィキは革命家一流の極端なる理想を實施し、一躍共產主義に移るべく所謂戰時共產主義を斷行した。然し斯る急變は到底遂行不能であつて結局失敗の事實を認めざるを得ざることゝなり、レーニンは巧みに政策の退却を行つて新經濟政策を採り、更に又新々經濟政策を實行して資本主義の一步前まで逆戻りをなした、然るに一時退却を行つて時機を待つたサ聯政府當局は五ケ年計畫の立案と共に再び左傾政策に返り所謂社會主義的建設に邁進し始めた。斯の如き政策の變轉、推移は何故に行はれたか、而して又現在の强行的左偏政策は如何なる內容のものであるか、以下逐次之等の問題に就ての說明を展開しよう。

戰時共產主義の失敗

一九一七年十一月レーニン一派が國內の動搖に乘じて當時のケレンスキー政府を打倒し政權を獲得するや、彼等理想家は平素抱懷せる政策の實現を勇猛果敢に開始した、卽ち外に對しては戰爭の卽時中止と外債の破棄、內に對してはツァール、地主の所有であつた土地の農民への分配、商業の國營、鑛山、鐵道、各工場等の沒收並勞働者に依る工場管理經營等を實行した、併しながら此の理想政策は決して良果を結ばなかつたのみならず、急遽なる變革は一切の經濟を支離滅裂に導き、加之一九二〇—二一年のウォルガ河畔に於る未曾有の大饑饉と相俟つてロシヤは正に一大餓鬼道を現出した。數億の巨費を投じたナンセン氏等の救濟も施すに術なく飢餓民は人肉をさへ喰ふに至つたのであつた。

何故に理想政策が敗れたか？　理想の徒たる共產主義者等が實際政治の運用に慣れなかつたのも一因であらう、又文化程度の低いロシヤ國民が此の高遠なる理想を解し得なかつたのも失敗の原因に數へることが出來よう、併しながら理屈はともあれ、土地は百姓に分配されて彼等永年の望は達せられたとは云ふものゝ、その收穫は食扶持以外、全部國家に

沒收される、殊に此の時代は國內戰の行はれてゐた時のことゝて、自己の食糧さへも强徵收さるゝに於ては、怠けるも骨折つて稼ぐも結局得る所は同じである、否、汗水を垂らして働くだけが骨折損となるのであるから、農民が一向に努力しなくなつた。ロシャの小說にも見らるゝ如く、金持ちになることが農民の唯一の希望であり目的である、故に此の農民の心理を無視した政策が反對の結果を齎したのは寧ろ當然と云はねばならぬ。

商業にしても同樣で、商店は國營であるから從業員は賣れ行が良からうと惡からうと一向に頓着なく、所謂士族の商賣で仕入にも運搬にも無駄や失敗が多い、又商品の貯藏、運搬等も自分の損得にならぬから注意が足らず破損もすれば腐敗もする、又品物があつても配給は順調に行はれぬ、況や前記の農業不振に加るに工業の衰微で、人民は金があつても物を買ふことも出來ず、完全に本政策は信用を失墜してしまつた。

工場に於ても右に述べた樣な現象が現れた。無智な經濟知識のない勞働者が工場の管理經營を行ふのであるから、資金の運轉は勿論のこと、材料の仕入も極めて拙劣、又工場勞働者は働いても怠けても同樣の工賃が貰へるのだから勉强しようとはしない、工場の機械器具の修理手入も怠りがちになる、此の儘に放置すればロシャの工業は破滅の外はなかつたのである。茲に於て指導者等も考へざるを得なくなつた、殊に爲政者として責任のあるものは、何とかして此の窮狀を打開しなければ自分等が永久に葬られて仕舞ふ危險があるので一大決心を以て政策の轉換を敢行した。これが新經濟政策の採用である。

新經濟政策より五ケ年計畫迄

斯くして一九二一年レーニンは黨內理論派の反對を押し切つて所謂新經濟政策に轉換した。これによつてロシャの經濟は一時的に救濟されたのであつた。而して此の新經濟政策は明瞭に資本主義への退却である、卽ち、農民に對しては穀物の無償徵收を廢止して買上を實施することゝし、その收入の多寡に應じて課稅する方針を執り、又土地國有の名義は存したが土地の賃借を許し、農業勞働者の雇傭をも認めたのである。商業に於ても勿論條件附ではあるが、個人營業を許したので、其の結果雨後の筍の如く個人商店が開かれ、物

資の配給も幾分か改善さるゝに至つた。又工場は大工場を除き、中、小工場を個人に貸與し或は之が個人經營を許した、工場勞働者も又その技倆、勤惰によつて勞賃に等差を附する等の手段を講ずるに至つた。

此の新經濟政策は個人の所有慾の一部を滿足せしめた點に於て相當の效果があつた、然しながらボリシエウイキはその本來の主義よりして全く資本主義的右偏政策を實施し通すことは出來ない、又新經濟政策で個人商業の一部をも認めることは認めたが根本方針として共產主義實現の意圖がある以上、個人商業に對しては依然相當の壓迫を加へた。而して又農民に對しても尙壓迫の手を緩めざる方針を持續し、過重なる累進的課稅を實施した、斯くの如き狀態であつたから產業の回復、發達は決して十分とは云へなかつた、則ち日に月に進步しつゝある諸外國に到底及ぶべくもなく、このまゝに經過すれば驅て世界の落伍者たるに至ることは明かであつた。又從來の如き對農民政策を以てしては到底政治的にも經濟的にも勞農政權の權威を維持することは不可能であると見られた。これがため遂にボ

リシエウイキはその主義の一部を放棄して更に右偏政策を實施するに至つた。卽ちこれが一九二五年の新々經濟政策であつて、個人商業に對する行政的壓迫も停止し、農民にも雇傭耕作を許すことゝした。

以上再度に亙る政策變更の結果、ロシヤの產業は漸く生色を呈し來り、彼の宣傳する處に依れば、農業に於ても工業に於ても大戰前の水準にまで漸く恢復し得たのであつた。然し、この間、農村にはクラーク（富農）が、都市にはネツプマン（新經濟政策成金）が現れ、多分に資本主義的雰圍氣を釀成するの結果となつた、爲に一部黨員の間に斯の如きは革命の意義を沒却し共產主義を冒瀆するものであるとの物議を生ずるに至つたが、之等に對してレーニンは、彼等を「左翼小兒病者」として抑壓して居たのである。然るにレーニンが死し、その抑壓が弛むと共に、政策問題に關して黨內は騷然論議沸騰、黨中黨を生じて相對立するの狀勢となつた。革命の元勳たるトロツキー、ジノヴイエフ等は左翼陣營を指導して新經濟政策を攻擊し、幹部派對反幹部派の抗爭は一時サウエート聯邦の將來

をさへ危ましむるに至つた。其處で當局卽ち幹部派は反幹部派に一大彈壓を加へその結果としてトロツキー一派の反幹部派は一掃せられたのであつた、然し幹部派も理論的には反幹部派に屈服せざるを得なかつた。元來、當局者と雖も共產主義者である、その同一主義者が一步一步と理想から遠ざかると云ふことは決して黨員を御する道ではない、黨員を統率して行けぬとなれば、失脚するより他に行くべき道はないのである。玆に於て幹部派たるスターリン一派は、前記反對派を彈壓驅逐したる後政策に變更を加へた。而も此の新に採用された政策は恰もトロツキー、ジノヴイエフ一派の唱へたその儘のものであつて、彼等反對派をして「スターリンは我等の政策を盜用した」と揚言せしむる程に左傾的の要素を多分に含んで居たのである。

斯の如き政策の變更は殆ど戰時共產主義時代に逆轉するものであつて一般民衆の反對を受くるは當然である。就中農民の反對は可成り猛烈であつた、又黨內にも新政策に快からざるものがあつて一九二八年の終りから二九年の初にかけてロシヤの現狀に基礎を置く右

派（ブラヴイウクロン）の攻擊を受け、幹部派はこれが壓迫にも一苦心を免れなかつた、然しスターリン一派は恒に凡ゆる權勢と苦肉の策とを以て黨及國家機關の廓清を爲し黨の結束を固め、遂に一九二八年に至つて五ケ年計畫と稱する產業經濟の建直しを標榜する大計畫を立案しサウエート國家の嚮ふ所を明にした。

五ケ年計畫に就ては章を改めて詳述するが、要するに農村に於てはクラークを退治して貧農を糾合し、農村をソフオーズ（國營農）及コルホーズ（共營農）化し、農民も亦工場勞働者の如く政府の權力の下に掌握し勞働せしめんとするのである。又工業に就ては重工業に主力を注ぎロシヤを一躍工業國化し勞働者の天下とする政治經濟を行はんとするものである。從つて玆に許されたる個人商業に對する壓迫の如きはその極に達し、目下に於ては全ロシヤに殆ど個人商人の影を絕つの有樣となつた。

現共產黨員等はこの五ケ年計畫を以て唯一の救國策、卽ち彼等の理想實現の方途なりとしてゐる、近時黨內に政策を右偏すべしと說くものがあつたが、その主張は脆くも摧り去

られてしまつた。勿論、左偏政策にも幾分の幅がある、卽ちこの幅員の範圍內に於て政策に多少のジツグザツグを示すことは想像し得るが、苟も共産主義者が政權を行使する限り彼等はその主義を放擲するものではない、共産主義を失へるロシヤは決してサウエートではあり得ない。而してボリシエウイキ政權に於て左偏政策——その終局の目的は世界革命にある——が急激に右偏することは、殆ど豫想し得ない所である。何故なれば右偏は彼等の自殺であり、世界プロレタリアートに對する食言裏切りとなるからである。

サ聯邦の政策變遷の概要を比較すれば卽ち左表の如くである。

サ聯邦政策變遷概見表

	一九一七年革命後（戰時共產政策）	一九二一年新經濟政策	一九二五年新々經濟政策
農業	1. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依り買上ぐ（無價値なる留紙幣を以て強制的に買上げしは無償徵發の結果となれり）。 2. 地主の土地を沒收し之を小作人に分配す。 3. 土地の私有權を廢し一切の土地を國有とし個人相互の貸借を禁ず。 4. 天災の場合或は農具勞力等不足の場合は土地を貸與することを得。 5. 土地の貸借は播種一回を行ふ期間以內（三順耕地は三年、四順耕地は四年、以下之に準ず）而して規則的播種なき場合は其の期間を三年以內とす。自己所有の勞力又は農具を以て必要なる農事を適時に行ふ能はざる場合には雇傭勞力を使用することを得而して雇傭者も同樣勞働せざるべからず。何人と雖分配地以外に自己の經營を以て耕作し得る程度以上の土地を借受くるを得ず。	1. 穀物の無償徵發を止め穀物の租稅制度を設け農民に租稅以外の穀物の自由處分を許す。 2. 農民に對し自作耕地の永租借權を許す。 3. 農業經營を目的とする土地使用權は自己の勞力を以て土地耕作を希望する勞農露國人民之れを享有す。 4. 土地の貸借は播種一回を行ふ期間以內（三順耕地は三年、四順耕地は四年、以下之に準ず）而して規則的播種なき場合は其の期間を三年以內とす。自己所有の勞力又は農具を以て必要なる農事を適時に行ふ能はざる場合には雇傭勞力を使用することを得而して雇傭者も同樣勞働せざるべからず。何人と雖分配地以外に自己の經營を以て耕作し得る程度以上の土地を借受くるを得ず。	1. 農民の行ふ小商業に對する壓迫を撤廢す。 2. 耕地開發の爲農民に國有地を十二年以上の期限を以て貸與す（永租借權を有する土地以外に）。 3. 土地を最も有利に利用し且資金又は農具不足の爲自己の土地を耕作し得ざる貧農を援助する目的を以て農民の土地貸借權の範圍を擴張し、其の期限を規則的播種なき場合に於ては播種二回を行ふ期間以內又三順及四順耕地にありては十二ケ年以內とす。 4. 農村勞働者臨時使用規則に依り農家の補助的目的を以て雇傭勞働者を使用することを許可す但し一年以上の協定の締結を禁ず（使用人數は制限しあらず）又普通勞働時間以上（八時間）に勞働時間を延長することを得。

	商業	工業
1.	1. 個人商業を全然禁止す。政府機關の內に配給部（國家商業機關）を設け農民より徵發せる穀物を切符制度により勞働者に分與し工場より得たる工業品を農民に販賣す。	1. 製造場、工場、鑛山、鐵道其の他生產機關及運輸機關を國有とす。 2. 個人工業は手工業以外之を認めず。
2.	1. 國家、組合及個人の商業を認め個人に對しては農產品、手工業、小規模工業の自由賣買を許す。（個人商業の規模は個人農業及工業の法令により自然に制限せらるゝものなり） 2. 然れども個人商業範圍は小規模に限られ個人「アルジョア」の發達を防止する爲國營商業及購買組合は個人商業に對し壓迫的政策を採用し又政權は個人商業に行政的壓迫を加ふ。	1. 國營のものトラスト法に依るもの及個人經營に依るもの三種とし企業の一部を民間に移すと共に營利的經營の途を開く。 2. 二〇名以下の雇傭勞働者を使用する個人工業は許可し其れ以上の工業は貸下又は利權に依り個人又
2.	1. 個人商業に對する壓迫を停止し國內商業は國營商業、購買組合及個人商業に對する租稅を減し個人商業の生產品及銀行の信用貸を爲し又行政的壓迫を停止し個人資本に一定の保證を與ふ。	1. 私設生產業を中小に分ち小產業は二〇名以下、中產業は二一名以上一〇〇名以下とし之を個人に許可す。 2. 私營工業の發達を奬勵し稅を輕減し三名以下を使用する手工業を無稅とす。

	外國貿易	貨幣制度	勞働法	利權	銀行	
1.	1. 外國貿易は國家の獨占とす。	1. 貨幣否認主義に達せんとし不換紙幣を濫發し其の價値を漸減す。	1. 八時間勞働とし賃金平均法を採用し其の後勞働能率減少せしめを以て强制勞働法を施行せしも不成功に終る。	1. 利權を許可せず。	1. 銀行業を國家の獨占とし後之を廢止す。	1. 總ての森林、地中埋藏物竝一般國家的價値を有する水
2.	1. 變化なし。	1. 準備金を有する兌換紙幣發行主義を採用す。	1. 勞働者の雇傭は勞働の機關を通して爲さざるべからず。 2. 從來勞銀は最高賃銀を規定せしも之を改め最低賃金を規定す。	1. 一九二〇年十一月外國人に對し利權を許可す。	1. 國立銀行を設立す。 2. 金融機關の小規模のものは個人に於て經營することを許す。	1. 公有とせざりし建物、商事企業及工業にして法律
3.	1. 變化なし。	1. 變化なし。	1. 勞働者の雇傭は勞働の機關を經由せざるも爲すことを得。 2. 技術者熟練職工等の賃金を大いに增加す。	1. 一九二三年一月一日ロシヤ人にも利權を許可す。	1. 變化なし。	1. 變化なし。

は會社に許可す。

	所有權	公債
	系其の他家屋、家畜、生産用器具、農村經濟施設は國有とす。	1. 舊政府の締結せる公債を破棄す。
	1. 各種の國内公債を發行す。 2. 銀行預金額を二千留に引上げ一萬留以下の相續權を許可す。	1. 變化なし。

に規定したる制限を超えざる數の雇傭勞働者を有するもの、生産用機械、金錢、有價證券、金銀及外國貨幣其の他の有價物家庭日用品、家庭經濟用品及個人必需品、法律に依り販賣を禁止せざる商品及私取引を禁ぜざる總ての財産は私有となすことを得。

第二章　五ヶ年計畫と産業

計畫は實行可能なりや

五ヶ年計畫は前章に述べた樣な經緯を以て、一九二七年莫斯科に召集せられた聯邦サウエート第十五回大會の決議に依り、現政權の政綱として定められた一枚看板である。其立案には、國家計畫部（ゴスプラン）（註、國家計畫部は重要問題を計畫する内閣直屬機關である）が主任となり、各省專門家を網羅し、經濟及び技術の兩方面より、周密なる研究を重ねた細密杉大な計畫である。

先づ其の概要を述ぶれば、一九二八年—二九年度より一九三二—三三年度に亘る五ヶ年間に於て、國家經濟の樹て直しを行はんとするものである。卽ち産業に於ては、工業を二倍乃至三倍に、農業を約一倍半に、その生産力を增加し、且此等産業の主力を國營、公營に掌握し、殊に革命以來の懸案として取殘されたる農村の社會主義化を完成せんとする試

みである。此の計畫遂行のため計上されたる國家の投資額は、約七、八百億留であつて、此の額は五年間に於ける國民總收入の三割乃至四割に該當する。

此の尨大なる計畫が發表せらるゝや、世界の各方面に多大のセンセーションを惹起し、特に經濟學者間には、その可能性の有無に就て各々見解を異にし、中には單にボリシエウイキ一流の宣傳であつて、空文に過ぎずと一笑に附し去つたものもあつたが、サウエート政權は計畫に基き、勇敢にその實行に邁進した。彼等は曰く「獨逸は彼の世界大戰に於て約七百億の戰費を投じ、克く五ケ年間の戰爭を遂行し得たのである。我々が五ケ年計畫の爲めに投ずる資金は略々此の戰費に伯仲するものであつて、戰時氣分を以て實行したならば、不可能ではない。」而して、この努力は吾等の理想とする社會主義的建設となつて酬いられるものである」と。

事實、彼等は現在擧生の努力を以て、五ケ年計畫を遂行しつゝあるのである。

今や計畫はその第二年度を終り、彼等の所謂決定年度たる第三年度に入つたのである。

而して、尨大なる工場は各地に建設せられ、鐵道は敷設され、農民は國、共營農業に入り、農村には多數のトラクターが送られ、國內は建設の氣分に滿ち滿ちてゐるやうであるが、一方に於ては物資の窮乏、能率の低下、經濟難、農民の困苦と不滿、等、五ケ年計畫の實行を阻害すべき幾多の障碍は次第に增加しつゝある傾向である。

五ケ年計畫は果して何處に行くか？　國民は克く此の困難に耐へ得るであらうか？　幾何の程度の成果を收むるであらうか？　これ等の質問は興味あり又極めて重要なる問題として、世の視聽を集めてゐるが、之が解決の爲には先づ五ケ年計畫の一般に亘り檢討するの必要がある。

計畫の大要

國家計畫部は五ケ年計畫策定に際し二個の豫定案を作つてゐる。卽ち、その一つは是非共達せんとする最小限の案で他の一つは狀況有利に進展せる場合、例へば、內作或は國際關係等に依る障碍なき場合達せんとする擴大案とも云ふべきものである。本書では假に前

者を第一案、後者を第二案と名付ける。而して、この兩案の開きは約二〇%であるが、狀況有利に進展せずして第一案で進んだ場合に於ては、六年間を以て第二案の目標に到達することになつてゐる。

五ヶ年計畫の爲に投下する資本は、第一案では七七二億留、第二案では九二一億留であつて、年度割の支出額は第一年度に於ては、約一〇三億留となつてゐる。爾後各年度の支出額は、その年度に於ける生産の增加に伴つて逐年增加し、最終年度たる一九三二—三三年度に於ける投資額は、二〇八億乃至二七七億留に達してゐる。又一九三二—三三年度に於ける國民總收入額は四四四億乃至四九七億留と豫定し、國家豫算中から國民經濟の爲めに支出せらるゝ率は一九二八—二九年度の二五%より一九三二—三三年度には三〇%に增大し、國民の私生活を向上せしめることを示してゐる。

五年間を通じて投下する資本の事業別は左の如くである。（單位億留）

	第一案	第二案
工業	一四四	一六四
電化	三一	三八
運輸	八六	九九
農業	二一九	二三二
その他	二九二	三八八
計	七七二	九二一

以上の如く五ヶ年計畫の實施による逐年の生產增加は建設事業の加速度的テンポを保證するものであつて、此の生產と建設との間には複雜なる關係を有してゐるのみならず、經濟の各部門に於ても各々密接不離の關係を有するは明かである。

例へば、一紡績工業を興さんが爲めには、其の生產力は需用數量を考慮するは固より、その原料たる綿の生產、輸送、工場設備に要する機械類の製作購入、電力の取得、勞働者養成等其の他有ゆる部門に亘り交涉を生ずるのである。從つて、各部門の統制ある發達を必要とするのであるが、就中、五ヶ年計畫の基礎をなし、その眼目たるものは、工業殊に

重工業であつて、之が發達には絶大の努力が拂はれてゐるやうである。

重工業計畫の展望

ロシアの工業は、帝政時代既に他國に比して遲れてゐたのであるが、革命の際に著しく破壞せられた。のみならずラトヴィア、波蘭の獨立によりロツヅ、リガ等の工業地帶が失はれたる爲愈々悲境に陷つた。ソ聯邦當局は之に鑑みる處あつて、五ケ年計畫に於ても「追ひ付け、追ひ越せ」の標語の下に最大の努力を拂つてゐる。彼等の所謂工業立國とは、最も廣汎なる意味に於て工業を經濟の重點たらしむる外、之を農業にも適用せんとするのである。卽ち農場をも一工場と見做し、農民は勞働者と同樣、貨銀を得て農業に從事し、馬鈴薯や小麥を生產する勞働者たらしむるの組織を包含してゐるのである。

五ケ年計畫に依る工業發達の爲の投下資本は、前にも述べた樣に一四四―一六四億留である。此の額は過去五年間に於ける工業に對する投資額四四億留に比すれば、約三―四倍の巨額に上るものである。而して、最終年度たる一九三二―三三年度に於ける工業總生產

額は一四〇億乃至一五〇億留に達することを豫定してゐる。次に工業各部門に於ける計畫の概要を述ぶれば左の如くである。

電化事業

嘗てレーニンは「全國が電化されねば共產主義は行はれない」と云つた。從つて、彼の言葉を神の託宣の如く受け入れるボリシエウイキが、何を措て置いても電化に努むるは當然である。五ケ年計畫に於て電化事業は工業のみならず、農業方面に屬する灌漑事業にも及す爲、多大の努力が拂はれてゐる。卽ち、一九二七―二八年末に於ける全發電力は、六〇萬キロワットであるが、一九三二―三三年度の終りには三七〇萬キロワットに達せしめんとするのである。夫は計畫實施前の全動力卽ち動物及機械を含む動力の九、五%であるのを、五年後には二〇%迄引上ぐる豫定である。之に要する資金として第一案では三一億留第二案では三八億留を計上してゐる。

本計畫に基き水力及火力による發電所は、各地に建設せられつゝあるが就中、大規模な

るものは南露ドネプロペテロバウロスク附近に於て、ドネプル河の水力を利用する發電所で、完成の曉には三三萬キロワットの電力を供給することになる。之は歐洲に於ても有數の大發電所である。

燃料

燃料中重視せられてゐるのは石炭及石油であるが、當局は燃料經濟の爲、原則として次のことを計畫してゐる。

（イ）燃料の消費量を工業に於て二五%、運輸事業に於て一〇%遞減する。

（ロ）燃料特に石炭、泥炭、石油の產額を增大する。

其生產發達の計數は次の如くである。

	一九二七—二八年度	一九三二—三三年度	增加率
泥炭	七二〇萬噸	一、六〇〇萬噸	二二二%
石炭	三、五五〇	七、五三〇	二一二
石油	一、一七〇	二、一七〇	一八五

石炭坑としてはウラル、莫斯科近郊、東部及中央シベリヤ、高架索等がある。其の最も大なるものはスターリングラード附近のドン河に沿ふ地帶に存在するドン・バスであつて全生產額の七七%を占め、之に次ぐものはノウオシビリスクの東南露支國境方面にあるクズ・バスであつて、全生產額の七%を產出し、埋炭量の豐富なるが爲、（全聯邦の八割六分）將來に於て注目せられてゐる。因に、昭和三年度に於ける日本の石炭產額は約三千萬噸である。之等石炭工業の爲、支出せらるゝ資金總額は一二億五〇〇〇萬留を計上してゐる。

次に石油は產額を增加するのみならず、之を加工精製することに努めてゐる。石油の主產地は有名なるバクーの外、グロズヌイ、エンバ等、高架索及裏海の沿岸の地であつて、之を黑海及ウオルガ等の水運により海外に輸出する爲、バクー——バツーム、グロズヌイ——トウアプス、エンバ——サマラ間に送油管の敷設を豫定してゐる。又石油工業の爲、支出する資金は一一—一四億留である。

製鐵及機械製作工業

サ聯邦工業立國の成否を左右するものは製鐵業である。併しながら、製鐵工業は甚だ幼稚であつて到底他の工業發展に伴はぬ現況である。從つて五ヶ年計畫に於ては最も之に力を注いでゐる。卽ち、工業投資額の內、其の四分の一に當る約四〇億留を支出する計畫である。現在全國の鐵消費量は四〇〇萬噸に過ぎないが、一九三二—三三年度には九八〇萬噸に達する豫定である。從つて、鐵の年產額を三三〇萬噸より一、〇〇〇萬噸に達せしむる計畫である。此の數は一九二八年に於ける佛國の鐵生產に該當する。而して、生產增加の爲には、ウクライナ・ウラル地方の製鐵工場の改善、ケルチエンスキー半島（クリミヤの一部）竝クズネツク附近の鑛山を開發することになつてゐる。其の結果は

尙鐵に附隨して、卑金屬の採掘も從來の約二倍に增加せしめんとしてゐる。其の結果は左の如くである。

	一九三二—三三年度	八五千噸
銅		
鉛		三八
亞鉛		七七
アルミニユーム		五

而して卑金屬開發の資金は五億留である。

次に機械製作工業は、最後の目的として、大小機械を自給自足し得るの方針の下に計畫せられてゐる。之が投資額は約一〇億留となつてゐる。其の內、最も特筆すべきものは自動車であつて計畫によれば、ニジニノヴゴロド附近に新設される自動車工場は、年約一〇萬臺の自動車を製造し得る施設をなしつゝある。之には米國より多數の技術家及四、〇〇〇萬弗の資本を入れてゐる。

又農具の生產高は六億一〇〇〇萬留に達せしむる豫定であつて、ロストフ、ウクライナ地方に尨大なるトラクター工場の建設を計畫しつゝある。其の他建築材料、セメント、鐵材、紡績、製織、化學工業機械等も、最初の試みとして計畫せられてゐる。又化學工業に於

ては肥料の製造に最も注意してゐる。其の他木材を原料とする工業卽ちセルローヅ製紙、人造絹等は、原料の無盡藏と相俟つて夫々偉大なる發展が豫想せられてゐる。

農業と運輸

農業改良の爲投資せらるゝ額は、約二二〇億留にして、其の生産額は一九二七—二八年度の七、〇〇〇萬噸から約一億噸に、耕作面積は一億一〇〇〇萬ヘクターより一億四〇〇〇萬ヘクターに增加する豫定である。

農業改造に就ては、前に述べたやうに農村の社會主義化を企圖し、之が爲には、國營農、共營農を極力奬勵すると共に、富農の撲滅を企てたのである。國營農とは國有の土地に國家が農業を經營し、農民は全く工業勞働者と同樣なる關係に置かるゝものであつて、共營農とは農民が、土地、農具、家畜を持ち寄り共同經營するもので、之による收穫は農具勞力等に應じ、夫々分配するものである。又其の收益の分配、穀物の賣却、トラクターステーションよりのトラクターの借受等は、組合が擔任するのである。

最初の計畫では、國營並共營農は全農耕地面積に對し、一九二七—二八年度の二%より一九三二—三三年度には一八%に增加する豫定であつたが、實施後の情勢に鑑みれば、國、共營農の比率が著しく向上せられたのである。

農產物の收穫を增加する爲には、耕地面積を增し、耕作法を改善することが必要であるが、之が爲には、大農法の採用及農業の工業化に俟つものが大である。當局は、この方針を極力高調してゐる。而して、五年後には、トラクターを一七萬臺に達せしむる豫定である。斯くて農業に於ては、小麥、甜菜等の食料品の外、棉花其他家畜の增加を企圖してゐる。

次に、運輸に就ては、漸次增加する生產品の輸送、其の他政治的意義を以て、約一〇〇億留が投資せられる。鐵道水路の改善及建設には特に力を注ぎ、就中鐵道に就ては、延長七五、〇〇〇粁より五年後には九三、六〇〇粁に增加し、之に應ずる施設並鐵道の電化を豫定してゐる。(民間航空の計畫に就ては後述する)

社會主義的見地よりの觀察

以上は、五ヶ年計畫の極く概要であるが更に此の計畫を社會主義的經濟建設の見地より觀察するに、計畫終期に於ける社會主義化事業の比率は、次の如く豫想せられてゐる。

區分	社會主義組織	個人經營
資本	國營 六三、五 組合 五、三	六八、八% 三一、二%
勞働者		八四、〇 一六、〇
經營者 農		一八、〇 八二、〇
經營者 工		九二、〇 八、〇
經營者 商		九一、〇 九、〇
國民收入		六七、〇 三三、〇

計畫は如何に實施せられつゝありや

然らば五ヶ年計畫は如何に實施せられたかと云ふに、最初發表せられた基本の計畫は其の都度、實施の間に於て現況に合致する如く逐次改編せられ、而も其の進度を向上した。

卽ち、第二年度の成績として政府の發表してゐる所は次の如くである。

第二年度の成績（但一九三〇年九月三十日に於ける）

一、國民の總收入	三二七億留
二、工業	
總生産	八九億留
（前年度に比し、二四%（內重工業は三八%）增加）	
電力	三五〇萬キロワット
石炭	四、五七〇萬噸
石油	一、七一〇萬噸
鐵	五〇〇萬噸
セメント	二、四〇〇萬樽
三、投資	
工業	三一億留
發電所	六億留
農業	一八億留
運輸	一六億留

其の他	四四億留
計	一一五億留
四、農業	
穀物總産額	八、八〇〇萬噸
（前年度に比し二二%增加）	
蒔付總反別	一四、〇〇〇萬ヘクター
（前年度に比し七八〇萬ヘクター增加）	
社會主義化農業	三、八〇〇萬ヘクター
共營	四〇〇萬ヘクター
國營	四、二〇〇萬ヘクター
計	（全農の三〇%）

尙、本年一月開催せられたサ聯邦中央執行委員會第三次會議に於て、國家計畫部長クイブイシエフは計畫第三年たる一九三一年度の國民經濟計畫に關する報告演說をなした。其の際、新年度の目標として發表した主なる數字を擧ぐれば左の如くである。

國民總收入	四九〇億留
石炭	八、三五〇萬噸
石油	二、五〇〇萬噸
電力	四五〇萬キロワット
鋼鐵	八八〇萬噸
トラクター	一〇萬臺
耕地面積	一四、三〇〇萬ヘクター
國、共營農	全農の五〇%

右の數字に依ると、第三年度に於ける計畫は、五ケ年計畫最終年度のものに肉迫してゐるのみならず、石炭、石油等の生産額は之を凌駕してゐる。

又同會議に於て、人民委員會議長モロトフは

「第三年度に於ては、社會主義的建設の大なる發展を遂げんが爲に多大の努力を要するが、今年の國民經濟に於ける社會主義化部門の進步は特に重大性を有するもので、其の割當は、昨年の七割五分に對し八割二分である」

と述べてゐる。

サ聯邦の今年度の豫算を概見するに、國家歳入總額は三二〇億留であつて、國民總所得四九〇億留の三分の二を占めてゐる。新聞に公表せられた豫算案の概要は左の通りである。

歳入

社會化せる國民經濟の自己財源	一三三億留
租稅收入	一一〇
國營保險其他	七七
計	三二〇

歳出

國家經濟支出	二一〇
文化的建設費	六五
其の他	三〇
豫備金	一五
計	三二〇

從つて、一九三一年度の歳入の九割迄は經濟的及文化的建設費に充當せられるのである。

右に述べたる數字の內、五ケ年計畫の成績に關するものは疑はしきものが少くないのであるが、兎に角、相當の進歩をなしつゝあることは窺はれるのである。又實際に於て、今迄なかつた大工場が、所在に建設せられ又起工せられつゝある。莫斯科近郊、ウラル、ウオルガ流域ウクライナ等の工業地帶の發展は特に目覺ましきものである。

就中、彼等の最も誇として、內外に宣傳しつゝあるものはトルクシブ鐵道の完成であつて、此の鐵道は中央亞細亞のカザクスタン共和國とキルギス共和國との國境たるルゴワヤより西伯利とキルギス共和國との境界セミバラチンスクに通じ延長一、四〇〇粁卽ち凡そ東京——鹿兒島間の距離に等しき延長を有し、セミバラチンスクに於て既設線に連接するものである。此の建設は豫定よりも、一年早く昨年五月開通するに至つた。之に依り、サ聯邦は年々一億數千萬留の輸入を仰きつゝありし棉花を同地方に栽培することに依り、そ

の輸入を免がれ、又中央亞細亞に缺亡せる木材、穀物を西伯利地方より輸送し、水利不便の爲同地方の困難とする穀物植付を棉花に變へしむる如き經濟的意義を有するものである。又既に述べたるドネープルの大發電所の如き（其他の施設）も其工事を進め約七割の建設を終つたと稱せられてゐる。又トルクシブ鐵道、ドネープル發電所と共に三大事業と數へらるゝウオルガ——ドンの運河開設事業は、スターリングラード附近に於て兩河の距離約五十粁の處に運河を開鑿しドンとウオルガの兩河を十二個の水門によつて連絡するのであつて、此結果、莫斯科附近及ウラル地方と黑海との水運を得んとするものである。該工事が現在幾何の程度に達成したかは明瞭でないが兎に角其の工事の進められつゝあることは事實である。

尙、最近サ聯邦政府機關紙イズウエスチヤは米國のネイション紙上に載せられた著名の政論家ルイ・フイシエル氏（「重油界の帝國主義」の著書）の滯露十二ケ月間の感想記を紹介して居る。勿論サ聯邦機關紙の記事であるから我田引水の傾はあるが、五ケ年計畫の進捗及ロシヤの現狀に對する一の樂觀的考察として玆に紹介する。

一九二八年十月作製された通りの計畫が果して履行されるであらうか如何と問ふものあらば、余は卽座にイエスと答へるものである。五ケ年計畫がその內容以上を、しかも四ケ年間に完成されんとし實に九〇%か一一五%達成と言ふ勢ひで進行してゐる。

又五ケ年計畫が豫期の方針通りロシヤを迅速に工業國家たらしめるだらうかとの質問に對しても余はイエスと答ふるものである、かくの如き偉大なる事業遂行には、勿論幾多の支障、困難が伴ひつゝあることは事實である。而しそれは活氣ある新銳勢力にあり勝ちの缺陷であり若いサウエート・ロシヤの强味もそこに存するのである、今日まで十三年の間我等は「ボリシエウイズムは六ケ月の後には失敗する」との豫言を聞かされ通しであつたが、今日では「ボリシエウイズムは資本主義社會の存在を危ふする程の有力なものである」といふことを自覺せねばならなくなつた。銀行家や工業家は非公式の會合の席上露西亞相手の仕事は危ないと語り、また新聞紙、議員及職工達は近き將來サウエート商品が世界市場に充滿するに至るべく自ら世界革命が實現するに至るであらうといつてゐるが、何れにしてもサウエートの威力を恐るる事に於て變りない、然し此等はやがてサ聯邦の眞相を語るやうになるであらう

計畫に伴ふ幾多の障碍

上述の如く、五ヶ年計畫が進められつゝある一方に於ては、各方面に幾多の困難が伴ふのは當然である。其の最も顯著なるものは深刻なる物資の缺乏であつて、昨一九三〇年度の初頭以來特に甚だしきものがある。

現在ロシアを旅行する者は、此の國民生活の窮乏の豫想以上に甚しいのに驚かざるものはない。食料品を販賣する國營商店の前には、市民が蜒々長蛇の列をなし、每日の食物を求むるのに半日或は一日を要するのを目擊する。中には買取ることの出來ない者もある。日用品は煙草、紙等に至る迄缺乏し衣類、靴等は修理に修理を加へて使用してゐる。又昔はロシアに旅行する者の土産としては、絹靴下、ハンカチ等の贅澤品を携行して行つたのであるが、現在では紙、砂糖、石鹸其他の日用品が喜ばるゝと云ふ有樣である。要するに、國民生活の現狀は如實に悲慘なる狀態を現出してゐる。此の狀態を目擊したものは、新經濟政策前の窮狀を想起せしめられる。而して、遂に悲觀論者はロシヤは破滅すると考へる者も尠くない。

併しながら、此の物資缺乏の原因は國內物資の不生產から來るのではなくて、五ヶ年計畫の實施に伴ふ一つの大なる犧牲である。更に解說すれば、此の大計畫實施の爲には、多大の外國資本を要するが、之が爲には國內の物資を輸出して外資輸入の資に充てる必要がある。此の大計畫實行の前には國民の苦難の如きは一時忍ぶべし、と言ふのが當局の腹である。

サ聯邦の外國貿易は國營であるから、此の如き計畫を實施するには、誠に好都合である。今戰前並最近數年間の貿易額を示せば左の如くである。

輸出入	一九一三年（戰前）	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年	一九二八—二九年
輸出	一四二・一〇〇萬留	六八・五〇〇萬留	七七・〇五〇萬留	七四・九〇〇萬留	八四・六〇〇萬留
輸入	一二二・一〇〇	七三・〇〇〇	七一・二六〇	九二・四〇〇	八一・三〇〇
計	二六四・二〇〇	一四一・五〇〇	一四八・七六〇	一六七・三〇〇	一六五・九〇〇

右の數字に依つて見れば、貿易總額は未だ戰前の夫れには及ばぬけれども、輸出入のバ

ランスは概ね平衡を得てゐる。

又サ聯邦の主要貿易國たる獨、米、英三國との輸出入景況は一九二八—二九年度に於て左の如くである。

	對サ聯邦輸出	サ聯邦ヨリ輸入
獨逸	一八八・四六五・〇〇〇留	二〇八・五三七・〇〇〇留
米國	一五二・九二五・〇〇〇	三八・四六九・〇〇〇
英國	四四・三三八・〇〇〇	一九二・五〇二・〇〇〇

サ聯邦より輸出する主要なるものは、穀類、家畜、魚類、毛皮、木材、石油等で、輸入の主要なるものは、鐵類、機械類、棉花等大部分五ヶ年計畫に直接間接の關係のあるものである。

サ聯邦は此等の輸入品に對し、半年乃至一年の信用期間を以て支拂をするのであるが、其の資金を得る爲に之に應ずる物資卽ち石油、木材、石炭等の天產物は勿論、穀類、卵、鷄等に至る迄、國民に必要なる分を殘し——其の分量が國民の滿足し得るものなるや否やは別として——其の他を擧げて國外に輸出してゐる。又運輸の梗塞等に起因して物資配給の圓滑に行はれないことも固より缺乏の一因となつてゐるのであつて、此の物資難は生產の減退に原因してゐるものでないことは前述の通りである。

次に起りつゝある問題は財政上の困難である。紙幣濫發による信用低下、補助貨の缺乏竝公債の濫發、其の賣買禁止等の結果、金融の杜絕を來し現金取引を中止して居る所も多數あるのである。是亦悲觀論者がサ聯邦は財政上の問題より破滅するであらうと、觀察する所以である。併しながらサ聯邦の政治組織が獨裁的であつて、如何なることをも斷行し得る狀態であるのに鑑みると、必ずしも悲觀說にのみ同意し難いのである。

今假りにウラル山脈を掘つて數百萬留の石炭が得られたとするならば、之を國營貿易により輸出して精油機械に換へ、之で石油工業を擴張することが出來る。而して次の年にはウラル炭坑及精油から利益が擧がり此等を更に他の企業に廻す。かくて年々事業は擴張されて行く。此の間、政府は勞働者に紙幣を以て賃銀を支拂ふ。此の紙幣は正貨準備なく形

を換へた切符同様のものであつて、對外的には價値がないにしても、內地では之と引換に物資が——制限せられた量ではあるが——自由に購買が出來る。國民必需品たる食糧や衣類日用品は國家に於て紙幣を以て買占めるか、又は製造して國民に賣つてやる。又紙幣增發により流貨が膨脹したときは、富籤附公債（無利子）を以て國民の射利心を煽り、又は强制的に購入せしめて通貨を回收して行く。卽ち勞働は無償にて產業を發達せしむることが出來る。國民には必要の最小限を與へ他は生產の資本として任意の方面に使用し得るのである。

第三の問題は經濟組織に起因する障碍であつて、卽ち官業による能率低下の問題である。諸工場に於ては計畫に基き所命の數量を製作するに努力する、若し數量を誤るときは上司より直に叱責されるからである。併し其生產費、品質の良否等は多く顧みないと云ふ如き事件は枚擧に遑がない。又諸官廳は官僚主義であつて繁文褥禮、計畫書類や種々の書類が山をなす光景である。一方勞働者連中は、仕事が六ケ敷なれば直に失業する、失業しても

失業保險が貰へるから、此の間に樂な方面に仕事を搜すと云ふ樣な狀態であつて、能率の低下は自然の勢であり、生產の減退を惹起するのである。又所有慾の到底失せない農民達は、國、共營農に不平を抱く者も多數に上り、勞力を吝み家畜を殺す等、所謂消極的抵抗を試みるものも少くない。

此等に對し政府は競爭の方式を以て勞農民の競爭心を刺戟し、又昨年度よりは五日週間の制度を採用して、各勞働者及幹部は交互に休むが、工場、商店等はレーニンの命日に一日、メーデーに二日間及革命記念日に二日間、合計一年に五日間の外は全々無休とし、全般としての能率の向上を計りつゝある。又昨年三月頃スターリンは命令を下し國、共營農への强制加入の手を緩め、其の加入は本人の希望によることゝし、之が爲一時六〇%まで達したる國、共營農は三〇%に減退した樣な狀態である。

是等の事象に就いてボリシエウイキは、之は共產主義の敎育が徹底せざる今日に於ては已むを得ざることであつて、將來敎育指導に依り改善し得るものである、現に革命以後に

育ち共産主義的教育を受けたる青年等は衷心から共産主義を謳歌し、五ヶ年計畫遂行のために献身的援助をなしつゝあるではないか、と稱してゐる。

尙、經濟組織の問題と關連して生ずる疑問は各部門の連繫である。此の問題に關しては、前に一部述べたのであるが、今日五ヶ年計畫を觀察する者の中には、五ヶ年計畫により諸建設が出來ても、各部の連繫が取れ其の生產機能を十分發揮するに至るは遠き將來であらう、殊に杜撰なる露西亞人の本能からして其の齟齬が多い、と唱へる者が少くない。此の問題は頗る重要である。事實此の傾向が增大せることは政府も大に頭を惱ましてゐる。之が爲最近中央執行委員會の決議で、內閣に直屬する施行委員會なるものを設置し、人民委員會議長モロトフを首班とし經濟各部の連繫及命令實施の監督に任ぜしむることになつたのである。

五ヶ年計畫の將來及反映

現在迄の過程に於て、五ヶ年計畫が幾何程度の成果を收むるやに就て、正確なる結論をなすことは何人と雖も困難であらう。併し其の立案の基礎には相當の根據があり、之に伴ふ障碍は必ずしも之を排除するの可能性がないではない。又現在までの實施の景況に徵しても侮り難きものがある。元來ソ聯邦は自給自足し得る豐富なる天然資源を有する。國民は忍耐力に富み、宿命的に强者に服從するの國民性を有し、政府の云ふがまゝに動く國民である。此等の點を考へると五ヶ年計畫は相當の成果を收むることが豫測せられ、五年が六年乃至は十年に延びたとしても、終には豫定の目標に到達することが出來るのではなからうか。偖て五ヶ年計畫が出來上つた場合には、世界各國に如何なる影響を及ぼすか。其の增加せられたる生產力は直に經濟戰の武器として使用せらるゝものと考へられる。卽ちダンピング(投賣)による市場攪亂である。現に此の問題は昨年世界市場に一大衝動を惹起してゐる。米國シカゴに於て約七五〇萬ブッシエルの小麥が投賣された結果、市價は忽ちブッシエルに付き九九セント八分の一から九四セント八分の一に下落し、又英國に於ても最近小麥がロンドン、リバープールの市場で、一クヲータにつき三二シルといふ樣な驚異的

安價を以て投賣せられた爲、數年間暫く四二シルを保つて居た英國の小麥市場は、致命的打撃を受け未曾有の混亂を呈したと稱せられる。佛、伊、希、羅、波等の諸國も亦同樣の影響を受け、其の他各國は穀類、マッチ、石炭等のダンピングに惱まされた。之が爲諸國は相謀つて其對抗策を講じ、漸次不買同盟に迄進み佛、羅、匈の如きはサ聯邦の投賣的輸出品に對し、最高度の防止關稅率を適用して斷然之を禁遏することゝした。國際聯盟でも反サ經濟戰線の擴大に迄反映して、東歐諸國に對する特殊借款を討議する等、列國の對サ態度は愈々尖銳化するに至つた。これに對しサ聯邦當局は此の如き行爲は資本主義國家がサ聯邦の發展を恐れてなせる經濟的、政治的反サ結合なりと自國內にて宣傳してゐる。其報復手段として、サ聯邦の貨物輸入を妨害する國に對しては、

一、當該國に於て購買又は注文することを禁ずる。

二、當該國所屬の船舶の傭船を禁止する。

三、當該國よりする輸送貨物に對し、聯邦內の輸送竝港灣及船舶の利用を禁止する。

ことを命令した。

右のダンピングは元來列國の市場破壞を目的としたものでなく、サ聯邦が資金を求むるに急なるの餘り安價をも厭はず外國に輸出したものである。併しながら五ヶ年計畫完成の曉にはサ聯邦は國營貿易の有利なる條件と組織とを以て所望の方面に計畫的にダンピングを實施することあるを豫期せられる。之に對し各國に於ては取締を行ひ或は不買同盟の如きも構成せられるかも知れぬが、サ聯邦當局は、資本主義國家は各々利害の不一致から決して共同戰線に出づるものにあらずと多寡を括つてゐる。而してサ聯邦と親交ある國家或は利に聰き國民の裏切等の生ずるが如き場合に於ては、世界市場は忽ち混亂を呈するに至るべく、誰かサ聯邦が此の機に乘じて赤化宣傳を併用し世界革命の機運を釀成するに努むることなしと言ひ得るであらうか。殊に支那を重要市場とする英國、日本等に於ては此の點に關しては大に考慮を拂はねばならぬのである。要するに五ヶ年計畫の將來に就ては、單に之を机上の空論的計畫として一笑に附せず、其の進展過程に對し常に注視を怠ること

は出來ないのである。

尙、又、假りにサ聯邦の五ヶ年計畫が將來完成さるゝとしても、斯る計畫が他の諸外國に應用し得るか否か、少くとも歷史的及地理的事情竝國民性の著しく異なる我が國に於ての實行は到底不可能と斷ずるの外ない。

第三章　五ヶ年計畫と國防

赤軍はサ聯邦の楯であり世界革命の前衞である

勞農赤軍はサ聯邦防衞の楯であると共に世界革命の前衞であるとは、レーニンの常に高唱した所であるが、經濟建設五ヶ年計畫の策定に當り國防の充實を重要項目の一として居るのは蓋し當然である。從つて五ヶ年計畫が重工業偏重主義を採り併せて極力軍需工業の振興に努めて居るのも亦無理からぬ處である。之がため輕工業は動々もすれば計畫に副はず國民生活を脅威せんとしつゝある現況である。更に之を裏書きするものは、聯邦サウエート第十六回大會に於て、

一、經濟獨立並國防增進の爲工業化發展速度の迅速なるを必要と認む

二、工業發展上第一義的に重要なる任務はサ聯邦國防力增加に必要なる工業を發展せしむるにある

と決議してゐることである。

現に、ソ聯邦上下の國防問題に對する態度は極めて眞劍で、資本主義國家は對ソ聯戰爭準備をなしつゝある等の記事を新聞に連載して一般民衆に國防の必要を宣傳して居る。國民も又對資本主義戰爭は免れざるものと確信して居る狀態は孰れの國に於ても見ることの出來ない現象である。而してその國防方針は單なる國家防衞にあらずして所謂世界革命を企圖する國策に順應せるもので、從つて五ヶ年計畫が國防の充實に重きを置くのは自明の理である。現に一九二九年發布の野外敎令に於ては「赤軍は、ソ聯邦の防衞に任ずると共に、その存在の事實を以て全世界に於る被壓迫勤勞民の自由解放に對する鬪爭を支援するものとす」と述べてゐる。

而して國防充實のため經濟建設五ヶ年計畫の進展に伴ふ如く國防五ヶ年計畫が樹立せられて居るのである。これによればソ聯邦の國防施設をして現代に於る世界の情勢に應ずる如き最新且最強力の武力の構成を主眼とし軍の機械化、化學戰に對する裝備の完成、航空

兵力の擴張等に全力を注いで著々進んで居る。

ソ聯邦の軍事豫算は昨年度に於ては一一億六〇〇〇萬留であつたが、本年度に於ては約十九億に達して居る、ボリシエウイキは國家總豫算に對する比率を擧げて、各國のそれよりも極めて低率なることを誇りとして居るが、元來ソ聯邦の豫算なるものは各國に於ては個人企業に屬する商工業の如きものも全部國營とせられてゐる關係上、總豫算は著しく尨大となつて居るのであつて、之と軍事費との比率を列國と同樣に求むるときは其の比率の低下を示すことは當然であつて、斯かる標準に於て比較せんとすることが無理である。而も右の軍事費の中には軍需工業費及營繕費の如きものは含まれて居らぬのであるから、之を加ふるときは更に大なる數字となることは明瞭である。

軍備の概觀

ソ聯邦の現有陸軍兵力は正規軍及民兵軍基幹人員約五十六萬二千、民兵軍兵卒約四十萬及國家保安部軍隊（ゲ・ペ・ウ）約十三萬、合計約百九萬二千と云ふ尨大なものであつて師

（旅）團の數は左の如くである。

歩兵	正規師團	二九
	民兵師團	四二
	計	七一
騎兵	正規師團	九
	民兵師團	三
	獨立旅團	九
計 師團		十二
旅團		九

又その編制裝備の大要を述ぶれば歩、騎兵共に軍團編制であつて、歩兵軍團は歩兵師團二乃至四及軍團直屬重砲兵聯隊等の特科部隊を以て編成せられ、歩兵師團は歩兵三聯隊、師團砲兵聯隊その他の特科部隊より成る。又騎兵軍團は騎兵師團二及裝甲自動車隊を基幹とし、騎兵師團は騎兵旅團二乃至三及騎砲兵大隊二を有し、騎兵旅團は騎兵聯隊二よりなる。

獨立騎兵旅團にあつては騎兵三聯隊及騎砲兵大隊より組織されてゐる。各單位部隊の自動火器及火砲の裝備は左表の如くであるが、之を列強軍に比較するも敢て遜色なく殊に自動火器の裝備は極めて優秀である。

△赤軍歩兵部隊裝備

	自動火器		歩兵砲	火砲
	輕機關銃	重機關銃		
中隊	六	二	—	—
大隊	一八	一二	二	—
聯隊	五四	三六	六	一二
師團	一六二	一〇八	野砲三六	十二糎榴彈砲 一八
軍團	略す		—	十五糎榴彈砲 一八
				十糎加農 九

（師團以下に屬するものを除く）

△赤軍騎兵部隊裝備

	自動火器		火砲及裝甲自動車
	輕機關銃	重機關銃	
中隊	八	――	――
聯隊	三二	一六	騎砲三
旅團	六四	三二	騎砲六
師團	一九二	一二	騎砲三〇糎榴彈砲六
軍團			裝甲自動車九乃至一二

略す

（師團以下に屬するものを除く）

民兵軍と稱するのは幹部以下正規軍と同一基礎の下に成立してゐる基幹部隊と、之により教育せらるゝ民兵軍兵卒より成り、其の教育は第一年度に三ヶ月、爾後の現役四ヶ年間に五ヶ月乃至八ヶ月の間教育を受けることになつてゐる。從つて素質の點では正規軍に劣るが、その編成、裝備は正規軍と同一である。又國家保安部軍隊と云ふのは、內務人民委員會（內務省に相當す）に屬し、反革命の取締り、國境、海岸の警備、交通線の守備に任ずるものであつて、師團以下の獨立部隊に編成せられ裝備訓練等は正規軍と同一若は夫れ

以上である。

世には往々にして現在に於ても尙、赤軍を目して自由主義教育を施された軍紀の自由な軍隊であつて、戰爭遂行力に乏しいものであらうと考へる者もあるが、事實は全く之と正反對である、今その一例を擧ぐれば、上下の秩序整然、嚴格なる軍紀が存在し、軍隊教育に於ては精神教育、卽ち共產主義的教育を以て最も重要なる鐵則として飽くまでこれが徹底を期し、正規教育時間の約三分の一と業間時間の殆ど全部とを費し深刻なる教育を施し、その他の軍事的訓練に於ても又可なり整備して居る。一方赤軍兵卒は一般市民に比し多くの特權を有し、從つて士氣は頗る旺盛であるからその精神的の價値は決して輕視することは出來ない。

以上の如く、ソ聯邦が革命後短時日の間に量に於ても又質に於ても强大なる軍備を整備し得たことは驚嘆に價するものがある、而して現在國防五ヶ年計畫により如何に軍備を充實しつゝあるか、以下これを觀察しよう。

軍の機械化

第一に注目すべきは軍の機械化である。軍の機械化とは軍隊に機動性を附與し、或は自己の掩護を增強してその威力を發揮する爲、戰車自動車等を配屬し、或は更に進んで速力攻擊力及防禦力の三要素を備へた所謂機械化兵團なる特種の部隊を編成するのを謂ふのである。

ソ聯邦に於てはこの目的の下にその骨幹となるべき戰車、裝甲自動車の充實を計り、現在戰車聯隊三、獨立戰車大隊四及若干の獨立戰車中隊等あり、合計三百五十臺の戰車並多數の裝甲自動車を有して居る。此等の戰車は從來外國より購入したものであつたが、近時ソ聯邦型戰車を製作する域に達し、その數も漸次增加されつゝある。又數年前迄は此等戰車、裝甲自動車を臨時編合して機械化兵團を編成し演習等に參加せしめて居たが、昨年首都莫斯科に於ては戰車大隊二、裝甲自動車隊一、車載せる砲兵大隊、機關銃隊及步兵大隊、化學隊等よりなる常設の機械化旅團を編成し、機械化兵科として獨立の兵科を設定するに至つた。その他レニングラード、白露、ウクライナ方面の軍管區に於ても此の種部隊が常設せられて居る模樣であつて、その他砲兵部隊の動力牽引等も漸次その緒に就きつゝあるとのことである。

軍の機械化は、五ケ年計畫に於て赤軍の標榜する方針中の第一に擧げらるゝものであるから、今後工業能力の增進に伴ひ如何なる程度にまで擴大せらるゝかは逆睹し難いものがある。

化學戰準備

第二は化學戰に對する準備である。赤軍に於ては已に久しい以前から此の準備を行つてゐたが、最近特にその充實を企畫して居り、現在化學部隊としては化學兵器研究所六、化學兵器製造所四、化學戰學校二、化學聯隊一、獨立化學大隊三を有し、その他各兵種の聯隊には化學小隊があつて、主として瓦斯の防衛に任じて居るが、一部撒毒の機關をも有して居る。又防毒マスクの如きも殆ど全軍の兵卒に普及し、平時の演習に於ても之を裝着し

て各種の戰鬪動作を訓練し、或は聯隊には瓦斯室を設けて之に覆面を裝せる兵卒を入らしめ毒瓦斯を充塡して、覆面裝着の適否並防毒面の良否を實驗すると共に、瓦斯に對する精神的訓練を施す等、實際的にして且眞劍な訓練が行はれて居る。右の外、化學戰に於る準備として、前述の五ヶ年計畫中の化學工業の部門に於ては毒瓦斯原料の生產增加に特別の注意が拂はれ、又將來戰に於ては必ず空中よりする瓦斯攻擊を受くることを豫想し、國防飛行化學協會等の公共團體と協力して瓦斯防護に對する一般民衆の訓練に努める等、その用意の周到なることは實に驚くべきものがある。

空軍の擴張

第三は空軍の擴張である。サ聯邦に於てはその劣勢なる海軍力に鑑みこれを補充する見地に於て空軍の擴張を計つて居る、殊に近時航續力の大なる飛行機及航空船の製作に意を用ひてゐることは我が國防上大いに考慮を要する點である。

其の兵力は昨年初頃に於て約百二十中隊、千二百機と云はれてゐたが、現在約百五十中

隊、千五百機に達して居ることは非常な躍進であつて、將來整備の目標として居る編制上の諸隊を完成するときは、陸上兵力、偵察七十七中隊、戰鬪六十八中隊、爆撃四十九中隊、合計百九十四中隊、約二千百機に上る豫定である。更に航空工業の方面に於ても技術、製造能力共に著しい發達を遂げて居る。現に優秀な自國製飛行機を製作し得るに至つた。その製造能力は明かでないが一九二七——二八年度には約五百臺であつて、各方面の狀況を綜合するに、現在では此の數よりも著しく增加してゐることは疑ひない所である、從つて自給自足の目標に到達することも敢て遠い將來を待たぬであらう。

空軍の强弱が民間航空事業の消長によつて大きな影響を受けることは云ふ迄もないが、サ聯邦も亦民間航空事業の發達に非常な努力を拂つて居る。而して民間航空に對しても他と同樣五ヶ年計畫を設定し、その中には多分に軍事的意義が含まれてゐるのが認められる。本年度計上せられてゐる民間航空豫算は約一億五千萬留であつて、當局は航空機の數、投資額等主要事項の發表を避けてゐるから詳かでないが、航空路の現況を見てもモスクワーレ

ニングラード間には未だ航空路が開設せられてゐないのに、モスクワから西伯利、或は阿富汗、土耳古等に向つては既に開設せられて居るが如き、之を我が國の民間航空路が、東京——大阪——福岡と云ふ樣に經濟的見地を主として航空して居るのに比し、ソ聯邦當局の意が那邊にあるかを窺ふに足る。尙、昨年十月末民間飛行事業統一のため、統一全ソ聯民間航空部なる機關が新設せられ、之を國防勞働會議に直屬せしめて民間航空の計畫、規整、航空路の開設、新航空路の調査、飛行家の養成、飛行機の試驗、製作等に任ぜしめることゝなつた。

ソ聯邦の民間航空會社としてはソ、獨合辨のデルフルト會社と統一全ソ聯民間航空部に屬する義勇航空會社（ドブロリヨート）の二會社がある。

現在既に開設されてゐる主要航空路は左の如くである。

一、モスクワ——イルクーツク——ヤクーツク

二、イルクーツク——ヤクーツク

三、ハバロフスク——ニコライエフスク——オハ（北樺太）

四、アルハンゲルスク——コトラス——ウスチスイソリスク（モスクワ地方）

五、アルマアタ——セミパラチンスク（中央亞細亞）

六、モスクワ——ハリコフ——バクー——テヘラン（波斯）

七、テルメーズ——カブール（阿富汗）

八、モスクワ——リガ——ベルリン

尙、イルクーツク——浦鹽間及沿海州よりカムチヤツカに至る航空路は本年度中に開設せられる豫定になつてゐる。又本年度中に各線とも冬期航空の設備が完成される筈である。

五ケ年計畫に示さるゝ航空路擴張の計畫は左表の如くである。

年度	航空路數	航空路延長
一九二八——二九	一六	一八、四八二粁
一九二九——三〇	二四	二五、九七二
一九三〇——三一	四〇	四六、四一二
一九三一——三二	六二	七一、一二二
一九三二——三三	一〇〇	一一〇、八三二

右の航空路の開設によつて幾程の飛行機が準備せらるゝかは判明しないが、相當の大な

る數に上るべきは想像するに難くない。

國防充實第一主義

要するに五ヶ年計畫開始以降の進度は頗る顯著なるものあり、就中、軍備に關する限りに於ては計畫通りに遂行せられてゐるのを認める。又前にも述べたる如く國防に關係ある重工業に對しては他の方面を犧牲としてもこれが完成を期し、實施上の成績に於てもその傾向は濃厚である。而してサ聯邦當局は經濟建設五ヶ年計畫は强力なる軍備の支援なしには達成し得ぬものであると信じ、國民の國防充實に對する支援も又甚だ熱烈である。

その一例を擧ぐれば、昨年十一月十五日から同月二十四日に亘り國防飛行化學協會（オソアヴィアヒム）の主催で實施せられた「國防十日週間」に於ては、勞働者大衆と赤軍との連絡の强化、赤軍の技術的進出、民間の航空發達の促進、飛行船の建造、國防飛行化學協會の擴大、等の方針を揭げ、新聞雜誌、ラヂオ、等あらゆる宣傳機關を利用して全國的に國防宣傳を行ひ、モスクワに於てに十日間に亘り一定のプログラムにより各種集會、軍事展覽會、觀兵式等が開

催され、全市宣傳物を以て埋められゝの盛觀を呈した。而して此の十日間の記念として飛行機八十七臺が民間から赤軍に獻納せられたのである。斯樣な狀況は通常世人の想像し得ない點であつて、或る論者は經濟建設五ヶ年計畫は軍備充實の五ヶ年計畫であるとさへ稱して居る。又今次の五ヶ年計畫には先づ第一に軍備を充實し、今後の第二次、第三次に於る五ヶ年計畫を保證せんとするものであると評せられるが、蓋し一個の觀察として又顧るべきである。如上の批評は兎に角、現實の諸情勢を考察するならば實質に於て五ヶ年計畫は軍備の充實であると云ふも敢て失當の言ではないと信ずる。

第四章　國民私生活の窮困と社會的混亂

物資窮乏と極度の節約

サ聯邦の五ケ年計畫實施による驀進的建設は以上記述した通りであるが、斯かる強行政策實行のため建設事業進捗の反面として國民大衆の私生活は極度の節約を餘儀なくされ、窮乏甚しい狀態であることは前にも之を述べた所であるが、尙玆にその實相を詳說しよう。

元來サウエート政府は農民に對して殆ど穀物の自由賣買を許さず、廉價な國定相場を以て買占める制度を採つて居る。從つて農民達は折角汗水流して多くの收穫をあげても收入はそれに伴はぬ結果として、自家の食糧に當てるだけを生產するに止めるか、然らずんば多少餘分を出しても賣惜みをすることゝなり、加之、最近に至つては五ケ年計畫の資金調達の必要に迫られて穀類の海外ダンピングを決行した關係上、愈々穀類の不足を招來して、近頃では白パンは殆ど手にすることが出來ず、黑パン又は黑と白との合ひの子のカーキ色

のパンしか食へない、而もこれも配給の圓滿を計るため節約を免れず政府は切符制度を採つてパンを分配するの止むなきに至つた。乃ちパンの量は制限せられてゐるが、國民大衆はその配給を得るため每日早朝蜒々長蛇の列を作つてパン配給所の店頭に立つ、併も此の列に立つて結局パンがもらへればまだ好い方で、一定の配給分量だけ出してしまへば遂に空しく歸るものさへあると云ふ慘めな有樣である。パンのみに限らず、砂糖、バタ、鷄卵茶等の必用品の窮乏してゐることも又同樣である。

政府は穀物不足の原因の一として農村文化の向上に伴つて農民が美食するに至つたことを擧げて居る、然し農村文化の向上等は妄りに信じられぬ所で、ロシヤの現狀よりして都市の悲慘な有樣に比較したならば或は百姓が食物に贅澤であると云ふことも是認されることであらう。數年前サ聯邦を旅行した某氏の實見談によると、列車中でみすぼらしい百姓と同席したので、近頃の政府を何う思ふかと色々話しかけて見ると、初めは容易に口を開かなかつたが、共產黨と何の關係もない日本人であると說明すると、漸く態度を變へて話し

出した。卽ちその老人は、政府の遣り口を攻撃し種々生活の苦況や物價の高いこと、租稅の高率なことを訴へ、自分は勿論、妻子に木綿着物の一枚も買つてやれぬ等、盛んにコボしつゞけたが、軈て晝食になると怪しげな木箱から甘さうな白パンと鷄卵等を出して「貴方も如何です」とすゝめながら食ひ始めた。そこで「生活の窮乏を訴へたのに君は隨分贅澤なものを食つて居ますね」と反問すると、その百姓は不平らしく「一體ロシヤで食ふことが何だ、勿論、以前私たちは黑パンを食つて居た。その代り自分の欲しいものが買へた。粗食して辛棒してもその甲斐があつたんだ。然し今は黑パンで我慢したつて一月に靴下一足だつて買へやしない、白でも黑でも結局變りはない、こんなことなら白パンを食つた方が得だ。この卵にしても昔これ丈持つて行けば子供の玩具の一つも買へたが今は山程卵を積んで行つても何一つ買へやしない」と憤懣の意を洩らした。

又先年ウォルガ河地方を船で旅行した人の話しでは、當時尙沿岸は非常に淋れて居り、革命戰中に破壞された家屋もそのまゝで、道路も修理されず、何れを見ても革命當時の慘狀

をそのまゝに殘して居た。從つて附近一帶の農民の生活狀態は非常に惡く、船に乘り込む船客の如きも靴を穿いてゐるのは全く稀で、服はボロ〳〵を着け、仲には古毛布で造つた服をまとふて居るものさへあつた。船客に色々話しを聞いて見ると異口同音に租稅が高い必用品が手に入らぬと答へ、共產黨であらうと帝政であらうと何れでもかまはぬから、兎に角物資が豐富になり租稅が安くなれば好い、と云ふ有樣であつた。彼等の食物も又極めて貧弱なもので、西瓜を買つてそれに黑パンを掻き混ぜて食つて居る。聞けば高價なお茶なと飮むにも飮めず、此の邊で穫れる西瓜で渴を醫し又飢を凌ぐより仕方がない、もう何年も甘いお茶も飮んだことがない、等と語つた。船員に彼等は此のあたりの貧農かと尋ねると「冗談ぢやない、彼等は皆船賃を拂つたお客さんだ、貧農に船賃など出せるものか」と答へた。

生きんが爲の第一の必要物食糧すら右の樣な狀態である、更に被服その他の生活日用品、煙草等嗜好品の缺乏に至つては敢て云ふ迄もない。能く莫斯科を通過する外人旅行者が店

頭の飾窓を見て、兎に角品物が並べられて居るので、何かと探して見るが、さて氣に入るやうなものは一つとして見當らぬと云つた實狀である。近頃ロシヤでは同じ編柄ばかり着て居るのを見るが、之は現在國營織物トラストで年齡或は各人の趣好に適する樣な各種各樣の編柄の衣地を製造せず、僅かに數種の同樣のものばかりを作つて賣り出すので斯樣な狀景を呈するわけであるが、編柄を見ると昨年の物か、今年のものか一見して見分けられると云ふ。

之は只に服裝のみに限らず、總ての物品が國營機關の製造による關係上、各人の嗜みを顧慮するの餘裕なく單一の種類のみを作り、而もその生產が不足するので各人は大小、適不適をかれこれ云つて選擇することは出來ない。勿論、品柄は同一でも豐富にでも與へられゝば未だ好いとして、邊避の地方、殊に極東の如きは甚しい物資の缺乏に住民が惱んで居る。そのため北滿から密輸入された麥粉の袋で着物を作つてゐる。××洋行、等と染め附けられた印入りの着物を着て勇敢に歩いて居る田舍娘に屢々出遇つて驚かされる。

次に住宅の問題である、ソ聯邦の首府莫斯科は革命前までは其の人口漸く百萬餘に過ぎなかつたが、革命後、都に出て何か仕事にあり付かうと各地から人民が蝟集した結果、最近は人口二百五十萬と云ふ激增振りである。政府はこの情勢に應じて家屋を新築したが到底人口增加の勢に追ひ付くべくもなく、又家屋の修繕も手が廻らぬと云ふ狀態で、住宅拂底、住宅難は愈々深刻となつて來た。そこで政府は已むを得ず、住民一人當り二サーゼン（約疊二枚の廣さ）を標準として住居の割り當を行つた。その結果、一軒の家屋で或る家族はその應接室を、他の家族はその食堂を、又他の家族はその寢室を、と云ふ風に分割して各室を占め、獨身者は以前のその家の女中部屋を貰ふと云ふ具合で、その炊事場、便所等は共同だが、アパート式に作られてゐない昔の個人住宅そのまゝであるから、不便、不都合は想像される。

以前、莫斯科に行くと、壁に祕密電話の裝置があつて話したことは忽ち他に洩れゝやがてゲ・ペ・ウに探知されるとの噂があつたが、上記の樣な混雜した同居生活であれば、電話

裝置など云ふカラクリがなくとも自然、隣り同志の間で拙いことが起り易く仲が惡くなるのも當然である。

共産黨治下の社會相斷片

ボリシエウイキは天下を掌握して以來、その理想に從つて各種の社會施設を行つた、例へば勞働者クラブの開設とか、托兒所の設置とか、變つた方面では監獄制度の改變等を實施し外國人の視察旅行者等にはそれ等の新施設を案内してサウエート政治の理想的一面を努めて宣傳して居る。勿論各種の社會施設はボリシエウイキの政策上の約束手形であるから、これ等を全然等閑に附することは民衆統御の上からも不信を招き、又諸外國に對する宣傳にも都合が惡いので、それ等の問題については窮乏の中にも努めて理想實現を期して居るが奈何せん國帑不足の現狀、殊に五ヶ年計畫で基本的國家建設事業に沒頭の最中とて仲々滿足に運ばず、その實績は眞相を究めると案外貧弱である。

食糧難、物資窮乏、强制統御、此等の社會事象は必然國民大衆の反抗と怨嗟とを招くこ

とは豫想さるゝ。これに對しては卽ちゲ・ペ・ウが絶大な權力を以て取締り警戒に當つて居る。國民が迂濶に共産黨政治を攻擊したりすれば忽ち逮捕される、ゲ・ペ・ウの探偵網は先にも一寸述べた樣にあらゆる場所に張られてゐるので、人民はめつたに政治論など出來ない、全く窮屈な思ひで生活して居る。日本の下世話に「人を見たら盜人と思へ」と云ふ言葉があるが、これと同樣に革命後のロシヤでは「相手はすべてゲ・ペ・ウのスパイと思へ」と云ふ諷刺語が流行したと云はれる。

サウエートの天下では共産黨員は所謂特權階級である。丁度昔の日本の武士と云つた形で、何處に行つても黨員としての位置權力を振り廻して他の者を戰慄させてゐる。從つて黨員でない者の執務振りを見ると實に戰々兢々たる有樣で、只管自分の地位の保持につとめて居る。蓋し總ての事業が國營化されて居るサ聯邦では一度失業する時は再び職を有ることが非常に困難である。例へば國營商店の事務員は積極的に活動して澤山の品物を賣り上げるよりも賣り間違ひをせぬ樣に、又帳簿の整理を怠らぬ樣に、計算に過ちのない樣と

全く消極的に仕事に當る。店を繁盛させるとか利益を上げるとかは殆ど考へることすら不能である。斯うして黨員以外の國民は愈々消極的になる一方、黨員は益々權力を振つて威張ると云ふ風潮が濃厚になりつゝある。

ロシャの秩序は罰金で保持されてゐると云ふも過言でない程である、卽ち唾を吐き散すと罰金何程、ベンチで寢たら罰金幾程、何は幾許、彼れは幾許と違法行爲は何でもかでも罰金徵收、まるで商品の定價のやうにそのリストが張り出されてゐる。而してその罰金の納附の方法も頗る簡單に、例へば電車の乘降口を間違へると、直ぐ巡査が飛んで來て規定の罰金を出せと命ずる、その金高を渡すと巡査は罰金の切符を納付の證明として引換に吳れると云つた具合である。

社會が混亂すれば必ず現れるものは乞食と泥棒と浮浪人、及不良少年である。流石に首府の莫斯科では政府當局が絕えずそれ等を追拂ふので、不良少年や乞食は近來ずつと減少したが、掏摸と泥棒は現在でも依然として盛んに稼いで居る。物を盜まれたが最後決して

犯人は分らない。政治警察には全力を注いでゐるが、刑事警察が忽せにされて居る證據である。莫斯科以外の都市、殊に溫暖で衣服のいらぬ南露コーカスサ地方の町等ではボロボロの浮浪人、乞食が多い。食堂で食事をして居る客の數よりもテーブルを廻つて施し物をネダル乞食の方が多い位である、と云はれる。

現在政府の最も厄介とする問題の一つは不良少年の始末である、革命と饑饉の副產物として全ロシャに蔓つた不良少年の數は約二十萬と云はれる。父母を知らず家を持たぬ彼等は靴など穿いたことはない、その足の裏はまるで板の樣に硬化して居て石コロの上でも雪の中でも平氣で素足のまゝ走り廻る。獸と異る所は言葉を用ふのと、身體にボロでも兎に角衣服らしいものを纏ふて居る位のものである。十四、五人位で團體を作り、汽車の屋根の上や車臺の下に鳥か蝙蝠のやうに止つて、夏は北に、冬は南にと國中を橫行する。各停車場では彼等を汽車から下すとその土地で惡事を働かれるので次の驛へ追拂ふ手段を取る、だから行き度い所まで行けるわけである。各所で孤兒、不良少年の救濟資金の寄附募集を

行つて居るが、その標語に「孤兒を掃除する爲に」と云ふのも又振つて居る。

以上、ロシヤ國民大衆の私生活の窮乏、社會の諸相の一端を述べたのであるが、要するに革命以來、國民一般は極めて陰氣、且頗る辛慘、甚だ重苦しい雰圍氣に生活して居ると云ふ外はない。ロシヤの民はニチエウォー式で無頓着であり、忍耐心に富むと云はれてゐるが、斯樣な困窮、悲慘な狀態に果して何處迄堪へ得るであらうか。

第五章　サ聯邦の對外策、就中其の東方策

西方より東方へ

サ聯邦は革命直後その理想とする世界革命の鋭鋒を資本主義の爛熟期に達せる西歐文明諸國に向けた、而してマルクス主義の原理により思想的活動を實行した。而もその最終の目的とする所は資本主義諸國の總本山たる英國の赤化顚覆にあつた。この西歐諸國に對する革命煽動は當初多少の效果を收め、獨逸に於ける革命、ブルガリヤの變亂、英國炭坑勞働者のゼネラル・ストライキ等を惹起した、從つて歐洲に相當の波瀾と恐慌とを捲き起したのであつた、併し歐洲諸國民の理性はロシヤ國民の如くボリシエウイキにとつて好都合ではなかつた。又、大戰に依つて窮乏疲弊の極にある國民等は一意平和を好愛したる爲、西歐赤化の企圖は遂に終局の成功を收むるに至らなかつたのみならず、却つて歐洲諸邦間に對サウエート聯合の觀念を生ぜしめロカルノ條約の如きものを見るの結果となつたのである。

茲に於てサ聯邦は世界革命の鋭鉾を歐洲より轉じて、その植民地たるアジヤ方面に向け轉換するに至つた。想ふにアジヤ方面に於ては、大戰による混亂と疲弊とは歐洲に比し僅少であつた、然しその國民は多くは歐洲資本主義國家による被壓迫民族であつて機を見て彼等の桎梏の下より脫出せんとする意識は年と共にその熱度を加へ來り、此の民族意識に鑑みアジヤ被壓迫民族の解放は、當然歐洲資本主義國を困窮に陷れ革命の過程を促進することに着意し、サ聯邦が西歐赤化の手を緩めて主力を東方に用ふるに至つたのは蓋し當然と云ふべきである。レーニンの所謂「世界革命の運命は東方被壓迫民族の向背に依つて決す」とは卽ち此の意味を語るものである。爾來、世界革命の火の手は今日に至る迄アジヤの地に炎上して來た。

回教諸國の反歐運動

アジヤに於ける回教諸國は二億五千萬の回教徒を有し、其の汎回教運動は大戰前歐洲諸國に對して一の脅威を與へつゝあつた、併しながら歐洲大戰が勃發するや、獨逸は回教諸國

の盟主たる土耳古を抱き込み回教の聖戰を叫ばしめ、之によつて回教諸國を自己に味方せしめんと企てた。併し之は何等の反響もなく回教諸國は將來の獨立と云ふ好餌につられて個々別々にその壓迫國たる西歐諸國に加擔したのであつた。思ふに此の事實は回教諸國が漠然たる回教結合を夢みるよりも民族の獨立乃至解放を熱望することの切なりし結果、頼むべからざる自己の壓迫國に迄加擔するに至つたことを示すものである、卽ち民族意識を洞察し此等回教諸國の解放運動に着眼して世界革命の一楔機たらしめんとしたのがサ聯邦の回教諸國解放援助運動である。

其の第一着手は土耳古の國民運動の援助であつた、卽ちサ聯邦はケマルが祖國擁護の旗を掲ぐるや直に之を援助し遂にケマルの愛國排外運動を成功せしめた。次でサ聯邦は回教諸國の排外運動を激成せしむるために、一九二〇年高架索のバクーに回教諸國の被壓迫民族大會を開き其の國民運動を刺激した。この土耳古の國民運動の成功及バクーの大會は回教徒の解放運動を激成し、遂に阿富汗に於てはアマヌラ王による排英政府を樹立せしめ、又

波斯に於てはリザ汗に依つて國民主義の政府を現出せしめた。更にサ聯邦は此等回教三國と關係を結び回教諸國に國家主義的結合の情勢を醸し以て壓迫國たる英國に大打撃を與ふるに至つた。而も此の排英運動は英國の植民地たる埃及及印度等にも波及し、現に此等の國が獨立運動に狂奔中であることは世人の耳目に新なる所である。

對支活動の種々相

サ聯邦の對支活動は眞に周到且巧妙を極めて居る、卽ち邊境地方に對する侵略的行爲と支那本部に於ける革命的氣運の醸成との使分けは甚だ鮮かなものである。

先づ支那の邊境に對する侵略は如何と云ふに、サ聯邦は支那本部に對しては諸外國との關係を考慮し帝國主義的侵略を愼みつゝあるも、諸外國との關係薄きその邊境地方に對しては帝國主義的色彩頗る濃厚なるものがある、其の最適例は外蒙に對する侵略である。今その經緯を概說すれば、大正九年後貝加爾に活動してゐたセメヨノフ軍の沒落に伴ひ外蒙へ逃げ込んだ白黨軍を討伐するとの名目の下にサ聯邦はその赤軍を該地方に進入せしめた

而て白軍の滅亡した後も尙赤軍を撤退せしめざるのみならず、此の赤軍の脅威の下に、遂に外蒙古サウエート共和國を樹立せしめ、名實共に外蒙古をサウエート聯邦の傘下に羅致した。

又新疆地方への進出は已に帝政ロシヤ時代に於ても屢々試みられた所であつたが、サ聯邦となつて後もこの進出方針には變りなく、彼は新疆との地利的接近を利用して貿易の發達を計り、その貿易額は最近五ヶ年間に輸出に於て三十五倍、輸入に於ては五倍の增加を見るに至つた。又昨年は新疆西方國境に沿ふ千四百五十粁のトルクシプ鐵道を敷設したことは既に述べた通りである、而も新疆地方は支那中央より遠隔の地にあり、早晩サ聯邦の勢力範圍に移るべき狀勢に在るは大いに注目すべき事象と云はねばならぬ、更に最近赤軍は居留民保護の名によつて新疆に侵入した事實がある。

次に支那本部に於ける革命氣運の醸成は如何、大戰後歐米列强の食指が支那に向つて動きつゝある事は今更說く迄もない、就中、日、英、米、各國は支那に最大の利害關係を有

して居る。ソ聯邦は之に鑑みる處あつて支那を赤化することによつて資本主義列強間に爭闘を惹起せしめ、或はその經濟的乃至は社會的不安を增大せしめ以て世界革命への進展を策してゐる。從つてソ聯邦は現在の所支那の赤化を以て最も重要視して居る。

然らば之につき如何なる手段を採りつゝあるか、曩にはレツドゼネラル馮玉祥に對して大なる資本と武器とを提供し、彼を傀儡として支那を統一し更にこれによつて赤化を行はんとした、而して馮が失脚してこの企が失敗に歸するや、國民黨に食ひ込み南方國民革命軍と提携し蔣介石を援けて長江沿岸に北上進出せしめた。然るに、其の後蔣介石の裏切りによつて此の畫策も又挫折するの已むなきに至つた、併しながら此の間に支那民衆に注入した共產主義的思想は相當の效果を現し、現に支那各地に共產軍の活躍するあり、其の剿滅意の如くならず、流石の蔣介石も手を燒いてゐる樣な始末である、而して共產軍は今後益暴威を逞しうせんとする形勢にある。一方支那國民黨の所謂帝國主義打倒、不平等條約撤廢等の反帝國主義運動は是亦凡てソ聯邦の對支活動の影響であつて、最近に於ける租界

回收、治外法權撤廢運動等の如きも又その具體的現れに外ならぬ。

更にソ聯邦の對滿洲政策を見るに彼が外蒙に於て實施した所と全く同一なることが認められる、卽ちソ聯邦は帝政時代に於ける侵略政策の遺物たる東支鐵道の權益を回收確保すべくあらゆる努力を拂つた、これが爲武力の使用をも敢て辭せざる事は、昭和五年初の支那側の東支鐵道回收に際し之を恢復するため、滿洲里、ポクラニーチナヤ兩方面に於て露支兩軍の戰闘を惹起した事によつて見るも明かである。

飜つて思ふに露支兩國の實力は到底比較すべくもない、故にソ聯邦が一度滿洲方面に帝國主義的進出を企圖するに於ては支那は到底之に對抗するの實力はない、然るに彼が此企圖に出ないのは畢竟滿洲問題に關する限り背後に日本が存在して居るが爲である。此の事は東支事件に際しソ聯邦が滿洲里方面へ進出するに當り如何に日本の態度を憂慮したか、その間の消息通の談を以てするも明かである。果して然らば、若し日本にして滿洲問題に於ても積極的態度を取り得ざるが如き弱點を暴露するに於てはソ聯邦は思ひ切つて滿洲方

面に進出するに至ることは明瞭である。

對日關係の實相

最後にその對日本政策を觀察するに嘗てサ聯邦は日本に對し思想的に攪亂を策し努力したことがあつたが其の成功を期し難きを知り、最近に於ては日本の對サ聯權益を侵害するの手段に出でつゝある。而してサ側の第一の目標とする處は北洋漁業に對する壓迫であるが、此の權益はポーツマス條約に基きサ政府も之を確認したものであるが、浦鹽に於る朝鮮銀行支店問題の如きも單に朝鮮銀行を目標とするものでなく、我が北洋漁業に打擊を加へ以て自己國營漁業の進出を計らんとするにある事は明瞭な事實である。

之を要するに現下のサ聯邦の對外政策は東方諸民族の解放運動に力を注ぎ、その重點は支那に置かれて居るのを見る、而してその行動の跡を觀察するに所謂臨機應變、硬軟自在であつて表裏の使分けは巧妙を極めて居る。而して目下は五ヶ年計畫の進行中であるから對外方面には十分の遠慮と愼重な抑制的態度であるのは當然であるが、然し將來五ヶ年計畫

完成し國力充實の曉に於てはその對外活動の目覺しきものあるべきは豫測するに難くない。

第六章　國策遂行に有利な國家組織

政治組織

以上數章に亘り五ヶ年計畫を中心とするサ聯邦の現況を述べたのであるが、抑々サ聯邦が其の國歩艱難の間に汎ゆる障碍を排除して敢然その目的に向つて邁進し得るのは何故であるか、此の問題こそサ聯邦の現在を見、將來を察するため最も重要な點である、然して之に解答を與へることは本書の眼目とする所である。之がためにはサ聯邦の國家組織に就て觀察する必要がある。

サ聯邦の國家組織を端的に云へば、一黨獨裁共產黨萬能の國家である。先づその政治組織に就て見るに、政治運用機關の要素は他國と同樣、政黨、議會及內閣の三つであるが、その內容は全然特異のものである、卽ち政黨は純然たる共產黨一黨であつて、他に何等の政黨をも認めない、而も黨員の信念、團結は最も鞏固であつて黨員は殆ど血盟の關係にあ

る。而して黨の組織は各行政區劃毎に黨會議を有し、その最高機關は聯邦共產黨大會である。併し本大會は毎年一回短期間召集せらるゝのであつて、常時は中央執行委員會が黨務を執ることになつて居る、而して黨中最も勢力のあるのは共產黨政治局員であつて之等は凡て黨幹部の獨占する所となりその黨に對する勢力は絕大である。事實サ聯邦百五十萬の露國共產黨員は少數幹部、特に現在は政治局書記長スターリンがその牛耳を執つてゐるのである。

サウエート大會

議會に相當するものはサウエート大會であつて他國の如く二院制度ではない。聯邦の憲法に依れば主權は勞働者、農民、兵卒のみに屬し他の階級は除外されてゐる、從つてこの主權を代表するサウエート大會は萬能の權限を有し、立法、司法、行政の三權共に本大會の行使する所である、本大會も亦毎年一回召集せらるゝに過ぎないので、其の他の期間はその代表たる中央執行委員會が業務を代行し——此の委員會も亦年三回召集せらるゝ規定

である——その閉會中は二十七名の幹事會を以て權限を行使することになつて居る。而してサウエート大會の議員が殆ど總て共産黨員なることは前記の如く主權が勞農階級にあることによつて想像し得る。又中央執行委員乃至その幹部員の如きは全部共産黨の幹部級の獨占する所であつて最大の國家權力を有するサウエート大會も畢竟少數の共産黨幹部によつて左右何れにも動くのである。

特殊の組織、制度

次に諸外國の內閣に類するものとしては聯邦人民委員會議がある、該會議の委員（卽ち首相を始め各省大臣に相當す）は前記サウエート中央執行委員會之を組織し自らは政策を決定することなく一にサウエート各機關の指示に依つて動く所の行政機關に過ぎないものであつて政策的に大なる意義はない。

以上政黨議會、內閣の外、玆に特異なるは全國的に統一した合同國家政治局（ゲ・ペ・ウ）なる機關があつて政治、經濟、思想等有ゆる方面に亘り反革命、反政府運動を嚴に取

締る樣になつて居り、共産黨萬能を振り廻す爲間然する所がない。

政治組織の外、經濟組織にしても、社會組織にしても凡て皆、一黨獨裁政治を行ふのに好都合に出來てゐる。經濟組織中、商工業が國營乃至公營であることは旣に述べた所であるが、又聯邦として重要視すべき農業も逐次社會化されんとして居る。之を社會組織方面に就て見るも、共産黨が全國的の組織によつて國民大衆を其の主義化すべく誘掖指導しつつあると共に、國民の軍事化、勞働組合の組織結成、極端なる言論の壓迫等により國民大衆をして一路共産主義の指す所に向ふべく他を顧るの餘地なからしめて居る。

第三インターナショナル、その他

以上はサ聯邦の內部が其の獨自の特殊なる國家組織によつて一黨獨裁政治の遂行に誠に好都合に出來てゐることを述べたのである。サ聯邦は更に進んで策動の手を各國に迄及ぼし、その國策遂行を有利に導かんとして居る、流石に世界革命の本山である。而してその國際的組織の尤なるものは周知の第三インターナショナルであつて、其の組織は、本部をモ

スクワに置き各國に支部を設け現在會員三百萬人以上と稱せられてゐる、而も本團體の指導者並高級役員が殆どサ聯邦共產黨員の占むる所となつて居るのを見る時、サ聯邦の世界に對する企圖の如何に雄大にして且好都合なるかを窺ふに足るのである。此の第三インタと同系の國際團體としては、國際青年共產黨（會員三百九十萬）國際職業組合（會員千七百萬）國際農民組合（會員數不詳）及國際革命後援會（會員數不詳）等があり、その各々は自ら赤色の名を冠して居る。

國策遂行の方式

以上によつてサ聯邦の國家組織及その主義政策遂行の手段方式の大體を紹介したのであるが、サ聯邦はその國策の實現並獨自の侵略的對外策の遂行の爲には全國家の力を動員し國民私生活の犧牲の如きは敢て顧慮せざる實情である。而して上述の如きその獨特國家組織と國政運用の機構とは政府の意向が何等妨げらるゝ所なく斷行さるゝ樣最も便宜に制定されたもので、斯る政治は他の一般議會政治の國家に於ては決して行ひ難い所である。

例へば五ヶ年計畫に於て重工業を偏重しその急速なる發達を期するために一般輕工業はこれを犧牲として顧みず、之がため前述の日常必需品の缺乏を來して國民が困窮に辛吟するもその救濟は行はれず、却て資金の必要に迫らるゝ時は唯さへ不足勝の穀物その他を海外市場に投賣する、卽ち國民がパンの缺乏に苦しめらるゝも何等意にかけず必要なる國策を斷行する。又、飛行機の補給を必要とすれば名を國難來に藉りて寄附金を强要し、或は資金の必要を生ずれば屢々內債を起して農民、勞働者の零碎な貯蓄を搾り取る、國策の前には國民の苦惱は毫も顧みられず、時としてはゲ・ペ・ウ或は赤軍をして劍を閃かし銃を擬せしめて民衆を强制することすら辭せぬ有樣である。而も政府は新聞、通信等一切言論、宣傳機關を占め、民間の言論は極度に壓迫抑制してその自由意志を發表せしめず、最も有力なる統制方針を以て凡ゆる企畫を遂行して居る。

結　論

今やサ聯邦は五ヶ年計畫の實施に邁進し、これが爲には國民總收入の約四割を徵收して

居る、卽ち國民を馳つて戰時的氣分に導き、この大事業の前には民衆私生活が未曾有の困窮に陷るも覺悟の上であると稱して居る。而して、如上の國家機能、政權の統制力、及民衆の忍耐性竝廣大なる土地と豐富なる資源等を綜合判斷するときは、本計畫は結局之を實現完成し得るのではあるまいかと思はれる。然り而して計畫成就の曉、其の充實せる國力は果して何處に指向せらるゝであらう？　吾人は讀者と共に五ヶ年計畫の今後と其の後に來るべきものとを刮目して見よう！

附錄

最近スターリンの激勵演說

本文は一九三一年二月四日、聯邦工業當事者大會に於てなされたスターリンの演說である。如何に彼が黨員に對するアヂに巧妙なるか、而して又建設途上のサ聯邦に、最も缺くる所の技術、科學的知識の獲得に苦心慘憺しつゝあるかの狀態が本演說によつて窺ひ知らるゝであらう。

ソ聯邦經濟建設當面の諸問題

スターリン

本年度計畫實行の重要性

諸君！　只今から、諸君は決議にとりかゝられるであらうが、それは疑ひもなく滿場一致を以て承認されるであらう。私は、本日の決議の內容を若干了知してゐる。——卽ちそれは、諸君が一九三一年度に於ける工業の統制數字を承認し、その實行に對する責任を表示されるであらうと云ふことである。

ボリシエヴイキーの言葉——それは確乎たる言葉である。ボリシエヴイキーは自分達のなしたる約束を常に嚴然と實行して來た。

然らば、一九三一年度の統制數字を實行する責任とは如何？　これは、工業生產の四五%

增加を確保することである。併し、これは、實に巨大なる課題である。否、それのみではない。一九三一年度の統制數字を實行すると云ふことは、諸君が、曾に五ヶ年計畫を四ヶ年で完成する約束をなすこと、それのみならず、工業の基礎的、決定的部門に於ては、五ヶ年計畫を三ヶ年で完成する約束をなすことを意味するのである。

本大會が、一九三一年度の計畫を實行し、五ヶ年計畫を三ヶ年で完成すると云ふ約束をなすことは、勿論大いに可とするところである。併し、吾々は過去に於て「困難なる試練」を經驗して來た。加之、吾々は、約束が必ずしも實行されなかつたと云ふことをよく知つてゐる。一九三〇年の初めに於ても、同樣に該年度の計畫を完全に實行すると云ふ約束がなされた。この約束に依れば、吾々は、前年度に於ては、我國の工業生產物を三一乃至三二%增加せねばならなかつた。然るに、それは完全には實行されなかつた。一九三〇年度に於ける工業生產物の增加は、實際に於ては、二五%であつた。故に、吾々にとつて問題なのは、本年度に於ても亦同樣のことが繰返へされはしないかと云ふことである。

計畫實現の條件

諸君は、今、一九三一年度に於て工業生産高を四五%增加する約束をなさうとしてゐる。さて然らば、その約束を實行する如何なる保證があるか？　統制數字を實行し、工業生産高を四五%增加するために、五ケ年計畫を四ケ年に、さうして、基礎的、決定的部門に於ては三ケ年に完成するためには、何が必要であるか？

これには、二つの根本的條件が必要である。

第一に、實際の、卽ち吾々の用語を以てすれば、客觀的可能性が存在すること。

第二に、この可能性を實行すべく、企業經營に對する熱意と熟練とを有すること。

前年度に於ては、吾々には計畫を完全に實行する客觀的可能性があつたであらうか？　然り、あつた。これは既に事實がそれを實證してゐる。卽ち、昨年の三月及び四月の工業生産高は前年度に比して三一%の增加であつた。扨て然らば、何故に吾々は全年度に亘つて計畫を遂行することが不可能であつたか？　何が障碍となつたのであるか？　何處に缺陷があつたか？

これは、明かに、現存する可能性を充分に利用する熟練を缺き、重工業工場、輕工業工場、鑛山を正しく指導經營する能力を缺いてゐた爲である。

吾々は、計畫を遂行する爲の第一條件卽ち、客觀的可能性を持つてゐた。併し、吾々は第二の條件、卽ち生產を正しく指導する能力を缺いてゐたのである。事業を正しく指導する能力を缺いてゐたが爲、計畫は完全に遂行されず、三一乃至三二%の增加計畫は、僅かに二五%の增加を以て終つたのである。勿論、二五%の增加は大事業であつた。資本主義諸國の何れを見ても一九三〇年度に於て生產の增加を示した國はなかつた。現在も亦ない。資本主義諸國に於ては、一の例外さへもなくその生產は著しく減退しつゝある。かくの如き情勢よりすれば、二五%の增加は、それ自體既に巨大なる前進である。

とまれ、吾々は、前年度に於てより以上の成果を收め得た。それは、吾々が、前年度に於ける生產の二五%增加により、最も重要なる客觀的條件を持つに至つたからである。

計畫遂行の保證

本年度に於て、昨年度の轍を踏むことなく、計畫を完全に遂行し、現存する可能性を充分に利用し、而して、諸君の約束を一片の反古と化せしめないためには、如何なる保證が必要であるか。

國家の歷史に於て、國土の歷史に於て、軍隊の歷史に於て、進歩のための、勝利のための一切の可能性を具備しながら、指導者達がそれらの可能性を認識せず、それを利用するすべを知らず、または、軍隊が敗北したがために、これらの可能性が利用せられず無駄となつた場合が往々にしてあつた。

吾々には、一九三一年度の統制數字を遂行する爲に必要なる一切の可能性（客觀的）があるであらうか？　勿論、これらの可能性はある。

然らば、それらの可能性を實現するために必要なる要素は何か？

先づ第一に、充分なる自然的富源即ち鑛物、石炭、石油、穀物、棉花が必要である。我

が國にはこれらの富源があるか？　勿論、ある。他の如何なる國々よりもより豐富にある。例へば、ウラルを見よ！　ウラルには他の如何なる國々に於ても見出し得ない富源の結合體が埋藏されてゐるではないか、加之、鑛物、小麥、石油、穀物等々は單にウラルのみにあるのではない。我國には、ゴムを除く一切のものが到る處に埋藏されてゐる。しかも二年後にはゴムも亦我國に於て生産されるやうになるであらう。この點卽ち自然的富源の點からすれば、吾々は完全に保證されてゐるのである。我が國には、自然的富源が必要以上に埋藏されてゐるのである。

尙、何が必要か？

これら巨大なる富源を人民の爲に利用する意志と力とを持つ權力（政權）の存在が必要である。吾々にはかくの如き權力があるか？　無論、ある。成程、過去に於ける吾々の自然的富源を利用する仕事は必ずしも我が國の勞働者間に何等の反對なく實行されたのではな

い。例へば、サウエート政府は第二の石炭冶金基礎地域設定問題に關して、若干の鬪爭をなさねばならなかつた。併し、この鬪爭は將來の發展のために是非、必要であつた。而も、吾々は既にこれらの障碍を克服し終へた。我々は近くこの基礎地域を持つであらう。

尙、何が必要か?

この權力（政權）は、數百萬の勞働者及び農民の支持を得ることが必要である。然らば、吾々の權力はかくの如き支持があるか? 然り、ある。諸君は、サウエート權力の如く勞働者及農民の支持をもつ權力を全世界の何處に見出し得るか。私は此處に我が國に於ける社會主義的競爭（ソチ・ソレウノウアニエ）衝撃隊（ウダールヌイ・ブリガード）の進展の事實、産業財政計畫（プロム・フヰン・プラン）のための鬪爭カンパニヤ等々の事實を引證するまでもない。これらの事實は、すべて事實そのものゝ中に、サウエート權力が數百萬大衆の支持を享有してゐることを明瞭に實證してゐるのである。

優秀なる制度

一九三一年度の統制數字を遂行するためには又之を超加遂行するためには、尙、何が必要であるか?

資本主義の不治の疾患から解放された、且又資本主義に比較してより優秀なる制度の存在が必要である。恐慌、失業、濫費、廣般なる大衆の窮乏化——これらが資本主義の不治の疾患である。然るに、吾々の制度に於てはかくの如き疾患は脅威とならない。如何となれば、權力は吾々の掌中に、勞働者階級（プロレタリアート）の掌中にあり、吾々は計畫的に經濟を實施し、財源を計畫的に蓄積し、さうしてそれを最も正當に國民經濟の各部門に分配してゐるからである。吾々は資本主義の不治の疾患から解放されてゐる。この點にこそ、我が國と世界資本主義諸國との差異があり、この點にこそ、資本主義に對する吾國の決定的優越があるのである。資本家達が如何に現時の恐慌から脫け出ようと焦慮しつゝあるかを見よ! 彼等は、勞働者の賃銀を最少限度に引き下げようとしてゐる。彼等は原料品及食糧品の價格を

最少限度に引き下げようとしてゐる。けれども、彼等は決して工業製品の價格を引き下げようとはしない。これは、彼等が生活必需品を、勞働者を、農民を、俸給生活者を、原料及食料品を生産してゐる諸國（植民地及半植民地）を犧牲にして恐慌より脫け出でようとしてゐることを實證してゐるのである。資本家達は、彼等がその上に安坐してゐる枝や葉をすつかり切り拂つて、現時の恐慌から脫げ出さうとしてゐるが、それは、反つて、更に新たなるより激烈なる恐慌への準備をなしつゝあることに考へ及ばないのである。

吾々の優越は次の點にある。吾々は過剩生産の現象の恐怖を知らず、現に數百萬の失業者を持たず且將來も持たぬであらうし、また吾々には、生産に於ける無統制と云ふこともない。如何となれば、吾々は計畫的經濟を實施しつゝあるからである。否、これのみではない。我が國は工業の最も集中化された國柄である。これは、吾々が我が工業をより進歩せる技術的基礎の上に建設し、且又、これを基礎とし空前の勞働生産力と蓄積の急テンポとを確保することを意味する。

吾等は進む

昨年度に於ける吾々の弱點は工業が分散せる農民經濟を基礎としてゐた點であつた。併し、これは過去に於てあつたのであり、今日は既になくなつてゐる。明日は、おそらく一ヶ年の後には、吾國は世界に於て最も大規模な農業國となるであらう。吾々には、公營農場（ソフホーズ）と共營農場（コルホーズ）とがある。而して、それは大規模の經濟形態である。これらは今年度に於て、既に、我が商品豆穀總額の大半を供給したのである。加之、それらは我等の祖國、サウエート國家が、他の如何なるブルジョア國家も夢想だにし得ざる急テンポを以て前進する可能性を、吾々に與へてゐることを意味するのである。

更に、七哩の歩幅で前進をなすためには、何が必要であるか？

最も優秀なる勞働者階級の力を一點に集中するために、十分に團結せる、さうして、困難に當面して挫折せず、正しき、××的、ボリシエヴィキー的政策を組織的に遂行するために、十分なる經驗を積める黨の存在が必要である。吾々にはかくの如き黨があるか？

然り、ある。

然らば、吾黨の政策は正しいか？　然り、正しい。如何となれば、吾が黨の政策は大なる成果を上げつゝあるからである。この事實は、同志のみならず、勞働者階級の敵にすらも認められてゐる。最も有名であり、所謂「尊敬すべき」紳士諸君――アメリカのフイシア、イギリスのチヤーチル、フランスのボアンカレー――が、吾が黨に向つて如何に吠え付いたり、激怒したりしてゐるかを見よ！　彼等は、何故に吠え付いたり、激怒したりするのであるか？　それは明かに吾が黨の政策が正しいものであり、且どし〳〵成果を上げつゝあるからである。

同志諸君！　こゝに、一九三一年度の統制數字の實行を保證する、五ケ年計畫を四ケ年で、また、決定的部門に於ては三ケ年で完成し得る一切の可能性があるのである。

ボルシエヴイキーの缺陷

以上の如く、吾々は計畫遂行の第一條件即ち客觀的可能性を現有してゐる。

然らば、吾々には、第二の條件即ちこの可能性を充分に利用する能力があるであらうか？　換言すれば、吾々には、重工業工場、輕工業工場、鑛山を正しく指導し得る能力があるであらうか？　吾々は、この點に於て些の遺漏もないであらうか？

遺憾ながら、其處には、可成りの遺漏があると云はねばならない。而も、ボリシエヴイキーたる吾々は、この點に就て卒直に、明瞭に公言する必要がある。

生産を正しく指導するとは、何を意味するか？　吾々の間には、往々にして、企業の指導的仕事をボリシエヴイキー的に考察しないものがある。吾々の間には、指導すること――それは、書類に署名することだと考へてゐるものが屢々見受けられる。これは悲しむべきことであり、加之、事實である。諸君は、不本意であらうが、此處に於て、官僚シチツドリンが「學問をして頭をこはすな、仕事など研究しなくてもよい、そんなものは他人に讓つて終へ、そんなことは君達の仕事ぢやない、君達の仕事は指導すること即ち書類に署名することである」と云つて、年若き官僚を如何に感化したかを回想される必要がある。

恥づべきことではあるが、吾々ボリシエヴィキーの間にも多數の書類に署名するのみで正しく指導しようとしてゐるものが尠くないと云ふことを認めねばならない。かゝる連中は、自分達の仕事を檢討し、技術を習得し、經費を節減する——かうした事は一顧だにせぬ連中である。

三度び革命を遂行したる、激烈なる内亂戰を、勝利を以て、終結したる、工業建設の巨大なる課題を解決したる、農民を社會主義へ轉向せしめたる吾々ボリシエヴィキーが、生産を正しく指導する仕事に於て、書類の前に御辭儀をしたと云ふことが如何にしてあり得るであらうか？

若しあつたとすれば、書類に署名することが生産を正しく指導するよりもより容易だからである。だから多數の經濟當事者が、最も容易なこの手段を採つたまでのことである。これは吾々卽ち中央部の怠慢である。十年以前に、吾々は次の如きスローガンを掲げた。「共産主義者はまだ生産技術に通曉してゐない、從つて彼等は經濟を管理することを學ばねばならない。故に技術家、技師、專門家をして生産を行はしめよ！　而して、共産主義者は、仕事の技術に干與せず、自ら手を下さずして、技術を學び且生産を管理する科學を學べ！　然る後に、共産主義者は從來の專門家と協力して、生産の眞實の指導者となり、事業の眞實の當事者（主人）となるであらう。」これが十年以前のスローガンであつた。而して、實際は如何に實施されたか？　このスローガンの第二の部分は放擲されてしまつた。それは、學ぶことが困難だからであつた。さうして、第一の部分は干與せずと云ふことを生産技術研究の放棄と誤解して、無意味なものとしてしまつた。獲得したものは、より早く、それから解放されることは、より有難いと云ふ有害なる、危險なる囈語のみであつた。加之、事實はこの主旨が徹底されてゐなかつたことをより明瞭に實證した。

障碍とその對策

シャフチンスキー事件は、その第一の立證（シグナル）である。それは、黨及職業組合が、從來、革命的配慮を缺いてゐたことを曝露してゐる。それは、吾々の經濟當事者が、技術の方面に

於て、依然として進歩しなかつたこと、技師、技術家達が無統制に働いてゐた爲に、容易に有害分子の仲間に轉向したこと、否、それのみでなく、彼等が容易に國外にある仇敵共の「申し込み」に屈服したことを曝露してゐるのである。

第二の立證は「產業黨」事件である。從つて、階級の仇敵共は、勿論である。

妨害運動が階級闘爭に基礎を置いてゐたことは社會主義の進展に猛烈に反抗してゐる。けれども、これらの妨害運動が、何故に我が國に於て「完成に開花した」かと云ふ說明には、稍々不十分である。

妨害運動は何故にかくの如く大仕掛に行はれたであらうか？　これは一體誰の罪であらうか？　これは吾々の罪である。若し吾々にして、經濟を正しく指導する仕事を確立してゐたならば、若し、吾々にして、前以て技術問題の研究に、技術の習得に着手してゐたならば、若し、吾々にして、屢々、且合意的に、經營の指導に干與してゐたならば、妨害者達もかくまで大仕掛に妨害することは不可能であつたらう。

故に、吾々自體が、仕事の專門家、經濟當事者となることが最も必要であり、吾々自體が技術の習得に當面することが最も必要である。

これが、吾々の實行せねばならなかつた肝要事である。とは云へ、第一の立證（事件）も、第二の立證（事件）も、決して、吾々の致命傷とはならなかつた。

技術を獲得せよ

今や、吾々は技術の習得に「面を向ける」べき時である。技術には干與せずと云ふ死せる古臭いスローガンを放擲し、吾々自ら專門家、仕事の玄人となり、自ら仕事の完全なる當事者となるべき時である。

何故に、我が國には集權制（エジノナリーチエ）が行はれないか？　と云ふ質問が屢々發せられる。併し、それは、吾々が技術を習得せざる限り、存在し得ないし、又、存在し得ないであらう。吾々ボリシエヴイキーの間に、技術、經濟及財政の問題に通曉するものが多數輩出せざる限り、吾々は眞實の集權制を實施することは不可能であらう。如何に、好き勝手な決議をなして

も、又、好き勝手な言葉を以て誓つても、若し諸君が、技術的に、經濟的に、財政的に、重工業工場、輕工業工場、鑛山等を經營しないならば、何事も實行し得ないであらう。故に問題は、自ら技術を習得すること自ら經營の當事者となることにある。唯だこの中にのみ吾々の計畫が完全に遂行され、單一制が實施される保證があるのである。

この仕事は、勿論、容易ではない。けれども完全に克服し得るものである。科學、技術的經驗、知識——これらは、凡て最も重要なる問題である。今日、吾々はそれを完全にしたとは未だ云へない。が併し、明日は必ず完全にするであらう。この場合最も必要なことはこの技術を習得し、生產の科學を確立せんとするボリシエヴイキー的熱意を持つことである。この熱望によつてのみ一切のものが獲得せられ、一切のものを克服することが可能である。

追ひつき、追越せ

吾々は、往々にして、凡てのテンポを幾何か緩和し、凡ての社會主義的運動を控目にしては如何？　との質問に接する。それは、いけない。諸君！　テンポを緩和するなどとは、甚だ以てけしからぬことである。緩和するどころか、寧ろ、反對に能ふ限りその力及可能性をより增大しなければならない。それは、サ聯邦の勞働者及農民に對する吾々の責任であり、全世界の勞働者階級に對する吾々の責任である。

テンポを緩和することは後退を意味する。而して、後退は動搖を意味する。吾々は動搖を欲しない。舊ロシヤの歷史は、不斷の後退の中に終りを告げた。蒙古王がゐた。トルコの太守がゐた。ポーランド、リトワニヤの地主がゐた。イギリス、フランスの資本家がゐた。××××××がゐた。さうして、舊ロシヤの軍隊、文化、國力、工業及農業を後退せしめてゐた。玆に於て諸君は、革命前の一詩人の次の言葉を回想する必要がある。「汝、貧困にして、而も、豐饒なる底力ありて、而も、無力なる。ロシヤよ！」と。

この古き詩人の言葉を、彼等は（蒙古王以下の諸外國の侵入者を指す——譯者）よく知

つてゐた。彼等はロシャを打ち撲り、然る後言つた。「汝、豐饒なる」と——さうして、甘い汁を吸ふことを忘れなかつた。彼等はロシャを打ち撲り、然る後、言つた。「汝、貧困にして、而も無力なる」と——さうして、掠奪することを忘れなかつた。後退のまゝで、無力のまゝで放擲すること——これが、資本主義の法則である。これが貪婪なる資本主義の鐵則である。汝は後れてゐる、汝は無力である——これは、汝を打ち撲るぞ、隷屬せしむるぞと云ふ意味である。

故に、吾々は、これ以上、後れてゐることは、斷じて、許されない。

過去に於て吾々には祖國がなかつた。また、あり得なかつた。併し、今や權力が吾々勞働者階級の掌中にある今日では、吾々には嚴然たる祖國がある。故に、吾々は吾等の祖國の獨自性を擁護せねばならない。諸君は、吾々社會主義者の祖國が打ち破られ、その獨自性を喪失することを欲せられるか？　若し、諸君にしてそれを欲せられないならば、諸君は最も短き期間内に我が國の後進性を清算し、その經濟的進展に於て、眞實のボリシエヴイキー的テンポを進展せしめねばならない。道は唯これのみである。

故に、レーニンは十月革命當時、次の如く言つた。

「死か、然らずんば、先進資本主義諸國に追ひ付き、追越すことかだ」と。

吾國は先進資本主義諸國より五十年乃至百年後れてゐる。吾々は、十年間に、この距離を走り終せなければならない。吾々は、これを達成するか、然らずんば、壞滅するかの二途あるのみである。

ボルシェヴイキーの責務

これが、ソ聯邦の勞働者及農民に對する吾々の責任である。併し、吾々には、尙、より嚴肅なる、より重要なる責任がある。それは全世界のプロレタリアートに對する吾々の責任である。それは、第一の責任と一致する。けれども、吾々は全世界のプロレタリアートに對する吾々の責任をより高く置く。如何となれば、ソ聯邦の勞働者階級も亦世界の勞働者階級の一部だからである。

吾々の勝利は、單にサ聯邦の勞働者階級の力に依るのみならず、全世界の勞働者階級の援助に依るのである。この援助なくしては、吾々はとつくの昔に、浸蝕されてゐたかも知れないのである。

我が國は全世界のプロレタリアートの衝撃隊であると云はれてゐる。それは正しい。從つて、全世界のプロレタリアートは、吾々よりもより以上に、我々を援助してゐると云へる。さうして、それは吾々が最初に資本主義との闘爭に投じたからであり、最初にプロレタリアートの政權を建設したからであり且又最初に社會主義の建設を開始したからである。又、吾々が成功せる曉に於ては全世界を××し、勞働者階級を解放する仕事に從事してゐるからである。

然らば、これが成功するためには、何が必要であるか？　それは、我が國の後進性の清算であり、最高度のボリシエヴイキー的テンポを以て社會主義建設を進展することである。吾々は前進しなければならない。さうして、それは、吾々を監視しつゝある全世界のプロレタリアートをして「これこそ、吾々の前衛隊だ、これこそ吾々の衝撃隊だ、これこそ吾々のプロレタリアート政權だ、これこそ吾々の祖國だ——彼等は自分達の仕事、卽ち吾々の仕事をなしつゝある——よろしい——資本主義を排撃し、彼等を援助し、而して、世界革命を××しよう」と朗かに語らしめる爲に。吾々は、以上の如き、全世界のプロレタリアートの期待を裏切つてはならない。然り、斷じて、斷じて、裏切つてはならない。若し、吾々が、吾々の名譽を汚すことを欲しないならば、斷じて、これを裏切つてはならないのである。かくの如きが、吾々の責任である。

諸君！　かくの如き責任は、吾々により一層のボリシエヴイキー的テンポを以て進展することを嚴命してゐる。

技術を獲得して猛進せん

勿論、吾々は從來、經濟を正しく指導する點に於て、何事をも實行されなかつたと云ふのではない。それは實行された。而も、それは、既に非常に多く實行された。吾々は工業

生産物を戰前に比し倍加した。吾々は全世界に於て最も大規模なる農業生産を建設した。加之、今年度に於て生産と、その技術的、財政經濟的方面とを習得することに努力するならば、まだより多くをなし得るであらう。

僅々十ケ年間に、吾々は先進資本主義諸國に後れてゐる、その距離を走り終せねばならない。而も、それが爲には吾が國は一切の客觀的可能性を具備してゐる。唯だ遺憾なのはこれらの可能性を十分に利用する熟練がないのみである。而も、これは吾々に依存する。唯だ、吾々のみに、依存する。

今や、吾々がこれらの可能性を十分に利用することを學ぶべき時である。今や、生産へ干與せずと云ふ陳腐な規定を放擲すべき時である。而して、今や、一切のものに干與すると云ふ新時代に相應する他の新たなる規定を採用すべき時である。

若し、諸君が工場の代表者であるならば一切の事務に干與し、一切の事柄を研究し、何ものをも逸がさず、も一度熱心に學べ！　今や、ボリシエヴイキーは自ら專門家とならねばならない時である。改造期に於ては技術が一切を決定する。而して、技術を學ぶことを欲せず、技術を習得することを欲せざる如き經濟當事者は、一の好事家にして、それは眞實の經濟當事者ではない。

扨て、技術を習得することは、困難であらうか？　否々、然らず。ボリシエヴイキーの攻め落し得ない保壘は、斷じてない。吾々は最も困難なる多數の問題を解決した。吾々は權力を獲得した。吾々は中農を社會主義へ轉向せしめた。建設の途上に横はる最も重要なる事柄を既に遂行した。吾々に殘されてゐるものはも早多くない。技術を學び科學を習得することのみである。而して、吾々がこれをなし遂げるならば、吾々が現在では決して夢想だにもなし得ない急テンポを以て吾々の建設を進展せしめるに至るであらう。而して、眞にこれをなさうと欲するならば、吾々は必ずやこれをなし得るのである。

昭和六年四月七日印刷
昭和六年四月十一日發行
昭和六年四月十三日再版
昭和六年四月十五日三版
昭和六年四月七日四版
昭和六年四月二十日五版

不許複製

驀進途上のサウェート・ロシヤ

定價金三十錢

著者　高橋利雄
發行兼印刷人　岩田壽
東京市小石川區久堅町百八番地
印刷所　共同印刷株式會社

發行所　東京、丸ビル・六九〇區
露西亞通信社
振替東京六一五〇八番
電話丸ノ內二〇三三番

露西亞通信社の事業內容

（創業大正十五年二月十二日）

一、通信

日刊『露西亞通信』 ハルビン發行

サウエート聯邦の表裏兩面の實相を紹介し、我朝野に中正なる對露知識を與へ、徒らに彼に憧憬し或は彼を憎惡するものを誡むべく、豐富適確なる資料に據り常に諸般の報道を忘らず本通信により始めて江湖に紹介せられ、世人を驚異せしめたる重要事項擧げて數ふべからず、爲に眞面目なる識者殊に多數者の指導的地位にあるの士は對露問題無二の好指針として絕大なる信賴を寄せられつゝあり。

日刊『露西亞通信』內地版 東京發行

サウエート聯邦を通じて我國に反映せる諸般の問題、事實、日露兩國間の交涉一般を報道し、又對露事業家必須の活資料たることを使命とす。故に日露の交涉に關心を有する人士は勿論、現代の思想、社會、經濟に關する諸問題の研究家及朝野要路の當事者諸氏の重要缺くべからざる資料として尊重せられつゝあり。

以上の外、ハルビンに於て、支那に對して日刊「蘇聯通信」を、サウエート聯邦に對して日刊「露文通信」を發行す。各通信定價月額二十圓

二、出版

旬刊パンフレット『露西亞事情』 東京發行 定價月額五十錢

一般大衆に對してサウエート聯邦の政治、經濟、軍備、外交、文化、その他社會全般に亘る事情を紹介し、對露知識を普及する目的を以て本社獨特の材料により極めて平易簡明に且つ興味深く編輯せるものにして、忙中、車上その他の一讀に適す。今や、社會の露西亞研究熱旺盛なるに伴ひ本パンフレットは大衆の支持を得、その讀者は全國の津々浦々に及べり。

年鑑『サウエート現勢資料』 定價一册五圓

サウエート聯邦は既に十數年の歲月を閱し其の存在は世界注視の的となつて居るが、殊に五ヶ年計畫立案以來着々建設事業を進め漸次進出の基礎を固めつゝあり。ロシヤ全般の現勢を知る事は特に我國人としては喫緊の重要事となつた。我社はこの要望に添ふべく、一九三〇年度より權威ある年鑑「サウエート現勢資料」を刊行し、今後毎年之を續刊することゝした。取材範圍の廣きと材料の適確とは本社の誇りとする所にして、本書一度び世に出るやその內容は歐米類似の群書を凌駕し、ロシヤの實情を傳ふる唯一の好資料として壓倒的賞讃を博せり。

三、講演

我社存立の使命を完行する爲め、上記日刊通信、旬刊パンフレットその他の定期刊行物を發行すると共に、廣く一般大衆に向つて直接ロシアの實相を徹底せしむべく隨時講演會を開催しつゝあり、即ち昭和四年二月（創業滿三年）には東京朝日講堂に於て一大記念講演會を開催し引續き全國各府縣、自治團體、新聞社等の後援又は依頼を受け逐次我社の講演網は全國的に擴大せられ殊に最近サウエート映畫の輸入と相俟つて優秀擧證的なる價値あるものを選擇し『ロシヤ事情講演と映畫の會』を開催するに至り本事業の意義とその價値將に百パーセントなり。

新刊

新興ロシヤを語る

一四七〇頁 定價五十錢 送料四錢

人類史未曾有の社會主義國家サウエート聯邦は、主義と現實の葛藤による深刻なる惱みと戰ひつゝも、併も敢然として國家事業の擴大五ヶ年計畫を樹てゝ資本主義列國を驚倒せしめた。建設方面に於けるトルクシブ鐵道の完成、ドニエプル方面に於けるダンピング等の發電所、ドン、ヴオルガ運河の工事、經濟へ、思想戰線から經濟戰にまでその脅威の魔手を延ばして來たシヤ」の社會機構、文化設備、經濟組織等々は吾々の常識として是非知つてをく必要がある。

目次

ロシヤの諸問題……高橋利雄
ロシヤの觀點……中平亮
最近ロシヤの實相……近藤義晴
映畫業者の觀たるサウエート映畫……根岸耕一
ロシヤ新興映畫に就て……袋一平
サウエートの新興文化に就て……甲斐虎太

發行所 東京市丸ビル六九〇區
露西亞通信社出版部
振替東京六一五〇八番

豫約出版

サウエート展望畫集

全六冊——一冊一圓

本畫集はサウエート・ロシヤの驀進的一般狀勢、就中五ケ年計畫に關する、最近の寫眞、ポスター、繪葉書等の珍奇なるものを苦心蒐集し、一目サ聯邦の現勢を展望せんとするものである。

内容見本入用の向は至急ハガキにて申込まれたし。

東京・丸ビル

露西亞通信社

露西亞事情

特輯パンフレット
月三回定期發行
定價月額五十錢

勞農ロシヤを知らずして今日の時勢を論ずるは寧ろ無暴に等しい。先

二八、農村の現狀及失業者救濟問題
二九、サウエート監獄實驗記
三〇、極東露領開發の五ケ年計畫
三一、ウクライナの獨立問題
三二、最近の勞農露西亞（講演速記）
三三、世界革命軍たる赤軍と共產黨
三四、波斯及接續地方交通の現狀
三五、南露高架索を巡りて（特派員報）
三六、支那革命援助策に共產黨兩意見
三七、一周年記念特輯號
三八、共產黨の內情
三九、赤軍の實力如何
四〇、サウエート露西亞總豫算　一九二七—二八年度說明報告・一
六五、露西亞共產黨の現況其他
六六、サウエート聯邦內異民族共和國及州の現況・一
六七、サウエート聯邦內異民族共和國及州の現況・二
六八、トロツキー追放記其他
六九、「日露親交か斷交か」を讀みて
七〇、共產インターナショナル十週年祝福スローガン其他
七一、共產黨に反旗を飜へしたドンバーセの懺悔錄
七二、コミンテルンの戰鬪召集檄文其他（發賣禁止）
七三、トロツキーは君府で如何にして商賣したか其他
七四、第二次共產黨內大淸掃其他

露西亞事情

特輯パンフレット
月三回定期發行
定價月額五十錢

勞農ロシヤを知らずして今日の時勢を論ずるは寧ろ無暴に等しい。先づロシヤを知れ！！

今や、サウエート主義とアメリカ主義は世界史展開の二大要因である。而して又、ロシヤは實驗臺上にある人類生活の珍重なる資料である。殊に日本とロシヤとは隣接の間に在り、彼我の交渉密接なるは云ふ迄もない。ロシヤを知る事は吾等の緊急課題である。

特輯パンフレット露西亞事情は、サウエートの政治、經濟、社會、文化等各般の實情並に共産黨の動靜その他、ロシヤの眞相を紹介する目的を以て、我社獨特の公正適確なる材料に依り平易簡明に且つ興味深く記述編輯したもので、ロシヤに關心を有する研究者は勿論一般讀書子の好圖の讀み物である。

▲露西亞事情既刊目次

一、現實と主義の矛盾に惱むサウエート聯邦
二、「サウエート」聯邦社會相の一端
三、國內商業及び外國貿易狀態
四、露西亞の支那赤化方針
五、赤い外蒙とその獨立三週年
六、矛盾と內憂外患の露西亞見聞記
七、當代青年氣質青年共産黨の悲哀
八、北京勞農大使館押收書類の內容
九、露西亞諷刺文學
一〇、半未開的な國民教育の概況
一一、露西亞內の全般的猶太人排斥運動
一二、露西亞國政の癌官僚思想と繁文褥禮
一三、恐怖政治の基本法令
一四、夏の莫斯科雜觀
一五、農村の概況と土地問題
一六、押收文書より觀たる對支內蒙政策
一七、革命後十年第二期の困厄
一八、波斯に於ける英露の葛藤
一九、サウエート社會の大脅威フリカン問題の考察
二〇、佛國著名記者の露西亞視察記
二一、波蘭とリトアニアの紛爭問題
二二、幹部派と反幹部派の論難應酬
二三、サウエートの工業化難
二四、サウエート聯邦の未來戰觀
二五、東支鐵道を中心とする露支關係と鐵道の現狀
二六、サウエート聯邦と奈翁主義の能否
二七、露西亞及歐洲諸國視察紀行
二八、農村の現狀及失業者救濟問題
二九、サウエート監獄實驗記
三〇、極東露領開發の五ヶ年計畫
三一、ウクライナの獨立問題
三二、最近の勞農露西亞（講演速記）
三三、世界革命軍たる赤軍と共産黨
三四、波斯及接續地方交通の現狀
三五、南露高架索を巡りて（特派員報）
三六、支那革命援助策に共産黨兩意見
三七、一周年記念特輯號
三八、共産黨の內情
三九、赤軍の實力如何
四〇、サウエート露西亞總豫算　一九二七―二八年度說明報告・一
四一、サウエート露西亞總豫算　一九二七―二八年度說明報告・二
四二、サウエート露西亞總豫算　一九二七―二八年度說明報告・三
四三、極東露領の現在
四四、極東露領の現在と第三インターの沿革及目的
四五、ゾシチエンコ著サウエートユーモア文集
四六、プロレタリア獨裁下のサウエート言論界
四七、各國共産黨員數其他
四八、ゴーリキーの最近作其他
四九、今尙ほ匡正されぬ官僚主義の弊風其他
五〇、日露條約と赤化宣傳其他
五一、露西亞の職業組合運動其他
五二、サウエート聯邦の社會保險其他
五三、第三インターの新綱領同上新組織と大會票決權數其他
五四、在歐白系露人の情況其他
五五、サウエート聯邦は何故外資を要するか其他
五六、サウエート新小說「戀すればこそ」
五七、プロレタリアートの使命其他
五八、極東露領に於ける朝鮮人の現況・一
五九、極東露領に於ける朝鮮人の現況・二其他
六〇、工主農從政策を中心に右頃反對派の出現
六一、極東露領に於ける朝鮮人の現況・三
六二、極東露領に於ける朝鮮人の現況・四
六三、極東露領に於ける朝鮮人の現況・五
六四、赤軍々人及家族の特典其他
六五、露西亞共産黨の現況其他
六六、サウエート聯邦內異民族共和國及州の現況・一
六七、サウエート聯邦內異民族共和國及州の現況・二
六八、トロツキー追放記其他
六九、「日露親交か斷交か」を讀みて
七〇、共産インターナショナル十週年祝福スローカン其他
七一、共産黨に反旗を飜へしたドンバーセの懺悔錄
七二、コミンテルンの戰鬪召集檄文其他（發賣禁止）
七三、トロツキーは君府で如何にして商賣したか其他
七四、第二次共産黨內大淸掃其他

七五、哈爾賓サウエート總領事館家宅捜索と押收赤化文書
七六、サ聯邦政府獨占下の外國貿易
七七、サ聯邦の共產主義宣傳と其反映
七八、サ聯邦の財政經濟其他
七九、サ聯邦內に於ける利權企業其他
八〇、サウエート時々漫談
八一、東支鐵道に於ける露支勢力消長史
八二、世界的視聽を集めた東支鐵道と露支紛爭・上
八三、世界的視聽を集めた東支鐵道と露支紛爭・下
八四、哈爾賓支那裁判所の露支共產黨員裁判其他
八五、サウエート統計集其他
八六、ロシヤの勞働問題其他
八七、猶太人の概況其他
八八、外國貿易の過去及び現在、赤系ロシヤ人の襲擊事件其他
八九、滿洲里露支國境視察記
九〇、東部露支國境視察記
九一、哈爾賓勞農總領事館で逮捕されたロシヤ共產黨員の裁判其他
九二、ウスリー地方に於ける朝鮮人・上
九三、ウスリー地方に於ける朝鮮人・下其他
九四、ベセドフスキー事件・一
九五、ベセドフスキー事件・二
九六、ベセドフスキー事件・三
九七、露支交涉と北滿の將來其他
九八、極東露領の慘狀
九九、サウエート社會相
一〇〇、北滿の形勢は劃期的變化其他
一〇一、露支國境戰ひの跡を見るの記
一〇二、尨大な勞農露國の陸軍々備、勞農露國農村政策の現狀
一〇三、露國軍隊內に於ける共產青年團・一
一〇四、露國軍隊內に於ける共產青年團・二
一〇五、露西亞監獄生活實話
一〇六、一九三〇年度國民經濟擴充計畫
一〇七、革命の新劃期時代
一〇八、クテボフ將軍失踪事件
一〇九、農村の集團經濟化運動に就いて
一一〇、サウエートの國防と共產青年團
一一一、ウクライナ獨立團反革命事件
一一二、滿洲に於ける赤化運動の情勢
一一三、露西亞共產黨の近況
一一四、露西亞の宗教撲滅運動
一一五、サウエート諷刺文學
一一六、露西亞ラヂオ界及映畫工業
一一七、支那共產黨概況
一一八、露西亞の航空事業
一一九、共產黨第十六回大會の橫顏
一二〇、農村社會主義政策の展開、サウエート新勳章令
一二一、五ヶ年計畫の先驅者
一二二、露西亞の運命・一
一二三、露西亞の運命・二
一二四、北滿に於ける共產黨の活動（上）
一二五、北滿に於ける共產黨の活動（中）
一二六、北滿に於ける共產黨の活動（下）
一二七、サ聯邦に於ける反革命事件概觀
一二八、サウエートのダンピング問題に就て
一二九、產業黨或は西歐諸國の對露武力干涉準備に就て
一三〇、サ聯邦の國家機構と外政の方式
一三一、世界經濟と第二次世界戰爭の危機
一三二、米國の對露進出に就て
一三三、ドンバーセ懺悔錄（上）
一三四、ドンバーセ懺悔錄（中）
一三五、ドンバーセ懺悔錄（下）
一三六、サ聯邦の財政々策（上）
一三七、サ聯邦の財政々策（下）
一三八、サ聯邦の國民經濟計畫

サウエート現勢資料

◉豐富を極むる此の內容◉

▲サウエート國家並政治、國策
▲國土、人民並民族問題
▲財政、經濟並產業
▲外交並對外赤化運動
▲軍政、軍備並赤衞軍
▲敎育、宗敎並文化事情
▲勞働並農村、政策及事情
▲共產黨及共產インタナショナル
▲サウエート治下の社會問題
▲赤露視察記、手記、並評論
▲時事、世相、人物月旦並雜錄
▲短篇小說及諷刺短文集

版版 1930年 1931年

四六版一千頁
布裝函入美本
定價各版五圓
代金引換送料（內地三十二錢 植民地六十錢）

刊行の趣旨

過去十餘年間、露西亞を傳ふるの書册は世界を通じて寧ろ多きに過ぐると雖も、何れも勞農主義を代辯せんが爲めに露西亞を善美化せんと欲する者若しくは之を論難せんが爲に醜惡化せんと欲する者の記述輯纂にかゝる。

是を是とし非を非とし、眞に在るがまゝの露西亞を語らんとする努力の結晶たる點に於て本書の眞價は以て世界に誇るに足るものあるを信ず。政治に經濟に社會文化に日露の關係は漸く交錯の度を加へんとするに鑑み、本書を識者の座右に送ることの意義寔に深甚なるを斷言す。

東京丸ビル六九〇區
露西亞通信社出版部
振替東京六一五〇八番

サウエート現勢資料

◉豐富を極むる此の内容◉

▲サウエート國家並政治、國策
▲國土、人民並民族問題
▲財政、經濟並産業
▲外交並對外赤化運動
▲軍政、軍備並赤衛軍
▲教育、宗教並文化事情
▲勞働並農村、政策及事情
▲共産黨及共産インタナショナル
▲サウエート治下の社會問題
▲赤露視察記、手記、並評論
▲時事、世相、人物月旦並雜錄
▲短篇小說及諷刺短文集

過去十餘年間、露西亞を傳ふるの書册は世界を通じて寧ろ多きに過ぐると雖も、何れも勞農主義を代辯せんが爲めに露西亞を善美化せんと欲する者若しくは之を論難せんが爲に醜惡化せんと欲する者の記述輯纂にかゝる。

是を是とし非を非とし、眞に在るがまゝの露西亞を語らんとする努力の結晶たる點に於て本書の眞價は以て世界に誇るに足るものあるを信ず。政治に經濟に社會文化に日露の關係は漸く交錯の度を加へんとするに鑑み、本書を讀者の座右に送ることの意義寔に深甚なるを斷言す。

刊行の趣旨

版型　四六版一千頁
年代　布裝函入美本
1930年　定價各版五圓
1931年　代金引（內地三十二錢　植民地六十錢）換送料（

東京丸ビル六九〇區
露西亞通信社出版部
振替東京六一五〇八番

¥.0.30